



CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

千葉県立美術館 年報 No.25

April 1998 - March 1999  
ANNUAL BULLETIN OF  
CHIBA PREFECTURAL  
MUSEUM OF ART







## 目 次

ごあいさつ .....	1
沿革 .....	2
平成10年度主要記事 .....	4
展示事業 .....	5
常設展 .....	6
特別展 .....	18
企画展 .....	24
普及事業 .....	27
美術講演会・ミュージアムコンサート .....	28
実技講座 .....	29
こども写生会・情報資料室・活動協力 .....	30
調査・収集事業 .....	33
収蔵資料 .....	34
管理運営 .....	36
機構 .....	37
平成10年度職員・協議会委員 .....	38
利用状況 .....	39
展示室利用団体 .....	40
施設 .....	44
関係法令等 .....	48
利用案内 .....	49

卷之三

目錄

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

## ごあいさつ

平成10年度の千葉県立美術館における活動の実績を年報としてまとめました。本館は昭和49年の開館以来、地域美術館及び近代美術館としての活動を通し、県民のさまざまな美術に対する要望にこたえるよう努めてまいりました。

10年度は特別展として、本県出身の近代洋画の先駆者、浅井忠の洋画、日本画、図案等による「浅井忠展」と、ミレーをはじめとして、パリ郊外のバルビゾン村に集まった画家たちに焦点をあてた「自然を描く—ミレーとバルビゾン派の画家たち—」を開催しました。企画展としては、新文展審査員を務めるなど美術振興に尽力し、鴨川市に在住した染色工芸家、木村和一に焦点をあてた「木村和一展」を開催しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、種々のテーマに基づいた常設展を開催したほか、館外2地域において移動美術館を実施しました。

このほか、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、展覧会に関連づけて美術講演会を開催し、さらに、こどもたちに創作の喜びを体験してもらうとともに、美術館活動に対する理解を深めてもらうため、県内の小学生を対象にした「こども写生会」を開催しました。また、美術の各分野にわたる実技講座を実施し、ますます高まっている県民の美術創作への意欲にこたえてまいりました。

作品の収集にあたっては、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体をはじめ、県民の皆様方の御指導と御支援をお願いいたします。

平成11年6月

千葉県立美術館長

鈴木道之助

## 沿革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備室を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月の増築工事で展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日	第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)	会」を開催一般公開を始める
昭和45年1月19日	県立美術館建設の請願書が2月県議会で採決される	管理棟杭打工事着工
昭和45年7月24日	建設地として千葉公園に内定する	管理棟建築工事請負契約議案可決される
昭和45年11月12日	第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)	管理棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
昭和46年3月31日	千葉公園内の美術館基本構想成る	管理棟竣工
昭和46年6月24日	体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる代案として千葉市中央港埋立地が提示される	管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する
昭和47年1月5日	建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する	寄附によって、正面玄関に植栽を行う
昭和47年3月31日	基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)	彫刻の屋外展示を始める
昭和47年7月31日	展示棟第1期工事の実施設計完了する	展示棟の一室に美術普及室を開設する
昭和47年9月21日	展示棟杭打工事着工	外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる
昭和47年10月13日	展示棟建築工事請負契約議案可決される	美術普及棟の準備会が発足する
昭和47年12月10日	展示棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)	美術普及棟建築予算が計上される
昭和48年4月1日	文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる	浅井忠像完成除幕式
昭和48年11月30日	管理棟(第2期工事)の実施設計完了する	美術普及棟実施設計完了する
昭和49年3月31日	展示棟竣工	美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する
昭和49年4月1日	千葉県立美術館発足する(職員14名)	県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される
昭和49年10月23日	開館記念式典を行う	県民アトリエ棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
昭和49年10月24日	開館記念展「千葉県美術展覧	県民アトリエ棟竣工
		県民アトリエ棟完成記念講演会
		千葉県美術品取得基金条例施行される
		県民アトリエ棟情報資料室を開設する
		美術普及コーナーを開設する
		開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する
		展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化
		入口門扉4カ所設置
		美術館西側沿道寄りの生垣植栽
		講堂浸水防止工事
		機械室増築基本設計及び展示

昭和62年10月15日	棟、収蔵庫、機械室増築工事実施設計完了する 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）	平成2年6月8日 平成2年9月29日	空調機改修工事完了する 収蔵庫（第1、2室）冷凍機改修工事着工
昭和63年5月20日	受水槽設備改修工事（地上式）着工	平成2年11月7日 平成3年1月31日	案内標識改修工事着工 収蔵庫（第1、2室）冷凍機改修工事完了する
昭和63年8月31日	受水槽設備改修工事（地上式）完了する	平成3年2月20日 平成3年12月6日	案内標識改修工事完了する 空調用ポンプ改修工事完了する
昭和63年8月31日	展示棟、収蔵庫、機械室増築工事完了する	平成4年4月1日	運営の一部が（財）千葉県社会教育施設管理財団へ委託される
平成元年2月28日	増築展示棟周辺芝張工事完了する	平成4年10月20日	温湿度記録装置改修工事完了する
平成元年4月1日	普及課が新設され、3課となる	平成4年12月18日 平成6年7月23日	食堂改修工事完了する 開館20周年記念特別展「房総の美術」を開催する
平成元年4月20日	開館15周年記念特別展「房総と近代美術」を開催する	平成10年2月23日	ガス設備改修工事完了する
平成元年9月11日	空調機改修工事実施設計完了する	平成10年12月24日	空調設備改修工事完了する

# 平成10年度主要記事

4月1日	常設収蔵作品展 「房総と近代美術」	12月12日	特別展 「自然を描く－ミレーとバルビゾン派の画家たち」 (1月24日まで)
5月12日	洋画講座 (5月27日まで 日数9日)	1月5日	常設収蔵作品展
6月4日	日本画講座 (6月19日まで 日数12日)	1月9日	「彫刻」 (4月11日まで)
6月6日	特別展 没後の90年記念 「浅井忠展」 (7月12日まで)	1月16日	ミュージアムコンサート 美術講演会
6月23日	陶芸講座 (8月6日まで 日数9日)	1月30日	常設収蔵作品展 「房総と近代美術」
6月27日	第3回こども写生会		「書の世界」 「美術の中の表現・花」 (3月22日まで)
7月21日	博物館実習 (7月27日まで 日数6日)	2月16日	金工講座 (3月4日まで 日数12日)
7月22日	第3回こども写生会展 (7月27日まで)		
7月25日	常設収蔵作品展 「房総と近代美術」 (10月11日まで) 「美術の中の表現・夏」 「金工の世界－津田信夫と香取秀真」 「こどものための展覧会」 (8月30日まで)		
8月26日	彫刻講座 (9月12日まで 日数10日)		
9月5日	房総の美術家シリーズ(25) 企画展「木村和一展」 常設収蔵作品展 「房総の工芸」 (10月11日まで)		
11月18日	版画講座 (12月3日まで 日数12日)		
11月20日	企画展「第22回千葉県移動美術館」 (鴨川市民ギャラリー 12月3日まで)		
11月21日	常設収蔵作品展 「浜口陽三・深沢幸雄の世界」 (12月6日まで)		
12月6日	企画展「第22回千葉県移動美術館」 (浦安市民ギャラリー 12月17日まで)		
12月8日	書講座 (12月10日まで 日数3日)		

## 展示事業

---

常設収蔵作品展は、日頃鑑賞の要望の高い作品を選んで紹介する「房総と近代美術」などを初め、「水彩画の流れ」「美術の中の表現・夏」「こどものための展覧会」「浜口陽三・深沢幸雄の世界」「書の世界」など、テーマに基づく構成により開催した。

特別展としては、「浅井忠展」と「自然を描くミレーとバルビゾン派の画家たち展」を実施した。

また、企画展としては、「房総の美術家シリーズ（25）木村和一展」と「第22回千葉県移動美術館」を鴨川市と浦安市で開催した。

## 常設収蔵作品展

### 「房総と近代美術」

「房総と近代美術」では、浅井忠や房総ゆかりの作家を始めとして、日頃鑑賞の要望の作品を紹介した。

会期	1	平成10年4月1日(水)～5月31日(日)	53日間
	2	7月25日(土)～10月11日(日)	68日間
	3	平成11年1月30日(土)～3月22日(月)	45日間
展示点数	1	26点	
	2	17点	
	3	23点	
入場者数	1	19,635人	
	2	37,610人	
	3	20,195人	

#### 〈日本画〉

1 石井 林響	白閑鳥	1924～25	16 コラン	田園詩	1903
2 "	蓬萊仙境之図	1927	17 コロー	ファンテンブローの風景	1830～35頃
3 "	秋景山水	1928	18 ジャック	森の中	1871
4 "	雨後浮船		19 デュプレ	嵐の前	
5 "	桃源		20 フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860
6 "	梅花書屋		21 "	森の空地の農婦	1862頃
7 "	老松白鷺之図		22 "	牛を追う農婦	"
8 富取 風堂	朝光	1931	23 "	羊飼いの少女	
9 "	斜陽（夏すがた其一）	1936	24 ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
10 "	夜（夏すがた其二）	"	25 ラヴィエ	モレスティル風景（沼）	1867～95
11 "	漁村の初夏	1942	26 "	モレスティルの谷	
12 "	花	1953	27 ルソー	バルビゾンの農場	1850～55頃
13 "	暮色	1962	28 ルノワール	少女像	1916～18
14 東山 魁夷	春雪	1973	29 ローランス	カルカッソヌの幽閉者の解放	
15 "	秋深	1975			

#### 〈洋画〉

1 浅井 忠	藁屋根	1887頃	1 高村 光太郎	裸婦座像	1916頃
2 "	小丹波村	1893	2 "	手	1918
3 "	漁婦	1897	3 "	十和田裸婦のための中型試作	1953
4 "	母の肖像	1899			
5 "	ファンテンブローの夕景	1901	1 香取 秀真	鳥銅鳳凰香炉	1911
6 "	農婦	1902	2 "	瑞鳥飾三足鑪	
7 "	老母像	1906	3 "	靈獸文大花瓶	
8 "	婦人像	1907	4 津田 信夫	ラジエーターの装飾	1929
9 石井 柏亭	冬の朝（行徳）	1909	5 "	変貌七色	1933
10 梅原 龍三郎	皇居	1980	6 "	鴨	1936
11 "	竹窓読書図	1937	7 "	鑄銅水盤	1937
12 "	純子像	1968	8 "	北辺夜猫子	1941
13 黒田 重太郎	女と小犬	1928	9 宮之原 謙	壁面照明銀河	1931
14 安井 曾太郎	熱海附近	1929	10 "	彩盛百合文壺	1974
15 クールベ	雪の中の小鹿	1869頃	11 "	鉄茶釉鱗文花瓶	1975頃
			12 "	釉嵌よろけ縞と盛上円壺	

## 「新収蔵作品」

「新収蔵作品」では、平成9年度に新たに収蔵した洋画、彫刻、工芸、書の作品を紹介した。

会期 平成10年4月1日(水)～5月31日(日) 53日間

展示点数 27点

入場者数 19,635人

### 〈洋画〉

1 浅井 忠	巴里婦人	1902~07
2 遠藤 健郎	我は海の子	1997
3 "	房総線ディーゼル・カーの乗客たち	"
4 小堀 進	川原湯風景	1934
5 "	太平洋の漁村	1941
6 "	渓流	1960頃
7 坂本繁二郎	海藻採りの海女	1912
8 時田 幸彦	レダと白鳥	1995
9 ドービニー	オワーズ川のほとり	1865
10 ラヴィエ	モレスティルの谷	

### 〈工芸〉

1 飯塚 小玕斎	掛花籠
2 板谷 波山	香炉
3 加藤 土師萌	酒瓶 1942
4 河村 蜻山	初黒茶碗 1938~46頃
5 染川 鉄之助	青銅石の目
6 津田 信夫	茶碗
7 西 大由	青銅小壺

### 〈書〉

1 岩波 白鵬	陶淵明詩三首	1997
2 小川 瓦木	古代人からのメッセージ5	"
3 "	古代人からのメッセージ8	"
4 千代倉 櫻舟	心・翔・宙 1995	
5 "	愛・焰・夢 1997	
6 "	昭和万葉集 "	
7 福田 丞洲	鄭板橋詩 1996	

### 〈彫刻〉

1 澤田 志功	森は観つめる	1995
2 伴 正史	人「無言」	1997
3 賴 永興	心海悠遊	"

## 常設収蔵作品展

## 「水彩画の流れ」

「水彩画の流れ」では、明治から昭和における水彩画の流れを、多数の画家による個性あふれた魅力的な作品で、前期・後期にわけて紹介した。

会期	前期 平成10年4月1日(水)～4月26日(日)	23日間
	後期 5月2日(土)～5月31日(日)	27日間
展示点数	前期 47点	
	後期 48点	
入場者数	前期 5,634人	
	後期 12,599人	

1 相田 直彦	清浪	34 古賀 春江	風景	
2 赤城 泰舒	赤屋根の村	1913	35 後藤 工志	ダリア 1913
3 "	普陀正趣亭	1936	36 小堀 進	真夏の海(太海) 1931
4 "	杭州葛嶺	1936頃	37 "	風の日の海辺 1935
5 "	山湖	昭和初期	38 "	冬晴の果樹園 1936
6 荒谷 直之介	大島風景	1920	39 "	漁村 1937
7 "	白船入港(マラガ)	1962	40 "	高原 1951
8 "	那覇の踊り子	1967	41 "	海(白浜) 1954
9 "	若い裸婦たち	1976	42 "	南欧の丘 1962
10 安藤 信哉	静物	1977	43 "	レマン湖畔 "
11 "	静物	1980頃	44 "	雨後の山(信州) 1964
12 "	みなと		45 "	ロンドンの朝 "
13 五百城 文哉	日光		46 "	山 1965
14 五十嵐 光昭	涅槃の前で	1983	47 "	霞ヶ浦 1973
15 池田 満寿夫	作品	1958	48 "	セーヌ川 "
16 "	水彩	"	49 "	逆光 1974
17 石井 光楓	タコマ	1925	50 小山 周次	ばら 1938
18 "	アーブル市・場末		51 "	甲斐牧丘 1946
19 "	荷揚げ		52 "	花菖蒲 1958
20 石井 柏亭	病児	1904	53 "	三宝柑 1961
21 "	舟に居る人	1913	54 "	林檎と柿 "
22 "	晩春行楽図	1938	55 柴田 祐作	佐原風景 1980
23 "	裏磐梯の秋	1952	56 "	水郷静日 1981
24 "	舞姫	1953	57 白滝 幾之助	エジプト 1922
25 石川 欽一郎	赤城淡煙		58 "	伊国アシシ 1923
26 今井 謙二	姉ヶ崎		59 "	伊国ナボリ "
27 瑛 九	鳥	1956	60 "	海 1939
28 榎本 了三	花籠	1975	61 須田 国太郎	風景(漁船)
29 大崎 善生	十二橋	1950頃	62 十亀 広太郎	道 1921
30 "	渓流	1988	63 "	上野公園池畔 1924
31 大下 藤次郎	紫陽花	1904	64 "	女 "
32 大下 藤次郎	青梅	"	65 田中 善之助	聖護院の裏 1907
33 国枝 金三	大阪風景	1909	66 "	山門

## 常設収蔵作品展

67 鶴田 吾郎	池袋風景	1911	82 牧野 克次	松林	
68 富田 通雄	静かなる日	1937	83 真野 紀太郎	バラ	1939~40
69 ツ	外房鵜原	1964頃	84 ツ	ツ	1940
70 中西 利雄	トリエール・シュール・セーヌ	1930	85 間部 時雄	寒林	
71 ツ	南仏風景	ツ	86 ツ	田中の牧場	
72 中林 傑	冬の風景	1935頃	87 丸山 晚霞	長野水内風景	1898
73 ツ	山中湖附近		88 水野 以文	草花	1914
74 鳩川 誠一	花火	1955	89 三橋 兄弟治	楽器のある静物	1953
75 ツ	荒川風景	1958	90 ツ	染色をする女	1954
76 ツ	祭	1971	91 ツ	作品Ⅱ	1967
77 ツ	ノエル	1973	92 ツ	トレド早春	1973
78 不破 章	裁縫女	1943	93 三宅 克己	小諸城址	1900
79 ツ	二女	1953	94 無縁寺 心澄	医大尖煙突	
80 ツ	ルッセルスハイム	1974	95 ツ	旧県庁と噴水	
81 ツ	麗日新宿御苑	1977			

常設収蔵作品展

「金工の世界 津田信夫と香取秀真」

近代工芸界のリーダーとして工芸の地位向上に尽くした千葉県出身の金工作家、津田信夫と香取秀真の作品を紹介した。

会期 平成10年7月25日(土)～8月30日(日) 32日間

展示点数 40点

入場者数 18,019人

1	津田 信夫	花瓶	1918	21	香取 秀真	懸花生	1907
2	〃	煙草入れ (巻煙草箱)	1926	22	〃	鳥銅鳳凰香炉	1911
3	〃	変貌七色	1933	23	〃	龍	1937
4	〃	一點玲瓏	1934	24	〃	鳩香炉	1949
5	〃	嘶馬	〃	25	〃	瑞鳥飾三足爐	
6	〃	胡孫遊目	1935	26	〃	美々豆久香爐	
7	〃	雷吼一聲	〃	27	〃	千本松文釜	
8	〃	鴨	1936	28	〃	鶴文鉄釜	
9	〃	鳳翔薰炉	1937	29	〃	鋳鉄茶釜	
10	〃	子迷家鴨	1938	30	〃	菊文釜	
11	〃	鷲	1939	31	〃	燼壺	
12	〃	北辺夜猫子	1941	32	〃	靈獸文大花瓶	
13	〃	閑鱗上下	〃	33	〃	鳳凰文様花瓶	
14	〃	荒鷲	1942	34	〃	笑獅子香炉	
15	〃	唐獅子置物	1946	35	〃	筋入花瓶	
16	〃	水盤		36	〃	六角火鉢	
17	〃	兎		37	〃	鉄瓶	
18	〃	月下妖麗		38	〃	銅製鰐口	
19	〃	水牛		39	〃	銅製鼎	
20	〃	犬		40	〃	銅製おしどり型香合	

## 「美術の中の表現・夏」

「美術の中の表現・夏」では、風景や人物、植物などの表現の中で夏を感じさせる日本画、洋画の作品を紹介した。

会期 平成10年7月25日(土)～8月30日(日) 32日間

展示点数 27点

入場者数 18,019人

### 〈日本画〉

1 黒沢 吉蔵	古郷晩夏	1988	5 足立 源一郎	水郷初夏 (中州) (4)	1955
2 富取 風堂	漁村の初夏	1942	6 ツ	水郷初夏 (中州) (5)	ツ
3 ツ	花籠	1954	7 荒谷 直之介	白船入港 (マラガ)	1962
4 ツ	初夏	1972	8 石橋 武治	水辺初夏	
5 横尾 芳月	緑陰	1959	9 大久保 作次郎	海水浴帰り	1917
6 若木 山	海女	1952	10 ツ	お茶どき	1950
7 ツ	波上海女図	1953	11 大野 隆徳	不忍池の初夏	1929
8 渡辺 学	下総の海女	1982頃	12 小堀 進	真夏の海 (太海)	1931
			13 椿 貞雄	夏之路傍	1921
			14 ツ	夏の風景	1928
			15 鶴田 吾郎	お山の鈴音	1968

### 〈洋画〉

1 足立 源一郎	水郷初夏 (十二橋)	1955	16 都鳥 英喜	海浜風景	1909
2 ツ	水郷初夏 (中洲) (1)	ツ	17 不破 章	バンコクの水辺市	1966
3 ツ	水郷初夏 (中州) (2)	ツ	18 ツ	台湾の農家	1978
4 ツ	水郷初夏 (中州) (3)	ツ	19 前嶋 実	九十九里初夏	1988

## 「子どものための展覧会」

小学校高学年の児童から中学生を主な対象として、現代の美術作品の中からこどもたちに親しみやすい作品を紹介した。

会期 平成10年7月25日(土)～8月30日(日) 32日間

展示点数 23点

入場者数 18,019人

## 〈洋画〉

1 伊牟田 經正	悲劇	1977	14 伊藤 順一	里	1992
2 片小田 栄治	地I(DIRTY COLLECTIONより)	1990	15 熊谷 文利	薬を飲む女祈祷師	1979
3 久保木 彦	鉄路の信号ボックス	1978	16 近藤 南海子	グレーの冬	1992
4 斎藤 捷夫	海辺の光景	1983	17 中野 庸二	a ripple	1990
5 佐善 明	New York Letter	1984	18 星加 達夫	影	1996
6 "	サンフランシスコ昼下り	1987	〈工芸〉		
7 高森 登志夫	絵画	1983	1 堀口 光彦	日曜日の朝	1977
8 松本 秋美	aspettare	"	2 "	安眠装置	1986
9 疊 嘘	CLOUDS	1975	〈彫刻〉		
10 "	HEARTS	"	1 笠原 鉄明	帰る日	1993
11 "	INSECTS	"	2 池田 丈一	ひねくれた正四面体	1981
12 "	BIRDS	"	3 "	ひねくれた正12面体	1986~87
13 "	ANGELES	"			

## 「房総の工芸」

房総の工芸家を主に、様々な工芸作品を紹介した。

会期 平成10年9月5日(土)～10月11日(日) 32日間

展示点数 50点

入場者数 18,272人

### 〈陶芸〉

1 神谷 紀雄	鉄絵銅彩椿紋壺	1987	3 青木 滋芳	寂	1970
2 河村 蜻山	長方皿雨・風・晴		4 "	黒潮	1977
3 土肥 刀泉	釉彩両耳花瓶	1967頃	5 上野 純郎	苺畠	1930
4 土肥 紅繪	小袖隨想	1992	6 "	二婦人染色壁掛	
5 土肥 満	向いあう單体	1975	7 "	草花図染色屏風	
6 三橋 英作	象嵌花器(展)	1984	8 "	郊外秋景染色屏風	
7 宮之原 謙	象嵌十字星結晶花挿	1932	9 深沢 範子	花かげ	1970
8 "	象嵌磁盛上花蝶鉢	1938頃	10 "	今日も明日も	1983
9 山本 正年	黎明	1953	11 "	シニヨリーア回廊	1990
10 横山 朝陽	牡丹紋搔落壺		12 二口 志保子	動	1968
11 横山 光之介	戦碑	1976	13 "	水面	1967
			14 "	花	
			15 "	紬織着物	

### 〈金工〉

1 会田 富康	蓋のある青銅壺	1965	1 佐治 賢使	苑	
2 香取 秀真	鳥銅鳳凰香炉	1911	2 佐藤 陽雲	木彫彩漆香	
3 "	鳩香炉	1949	3 武田 武弘	ランボーの詩より『朝』	1975
4 香取 正彦	鋳銅四神文四方花瓶	1952	4 増村 益城	乾漆波文溜塗盛器	1965
5 小林 正利	祈り(啓蟄)	1975	5 三村 比呂志	想曲	1971
6 鈴木 治平	湿原の詩	1985	1 佐治 賢使	菱華文象嵌長手箱	1946
7 津田 信夫	海	1927	2 佐藤 陽雲	蝶貝象嵌箱	1966
8 "	ラジエーターの装飾	1929	3 中臺 瑞真	桐経箱	1992
9 "	鳳翔薰炉	1937	4 "	十六弁菱形盤	
10 信田 洋	装瓶(櫻)	1966	1 佐治 賢使	飾管朱雀	1978
11 堀口 光彦	日曜日の朝	1977	2 "	飾管・しだれ櫻	1985
12 "	安眠装置	1986	3 中臺 瑞真		
13 宮田 宏平	生命の透間風	1982	4 "		

### 〈染織〉

1 青木 滋芳	洞門	1965	1 藤田 喬平	飾管朱雀	1978
2 "	染色笠森寺(古刹)	1969	2 "	飾管・しだれ櫻	1985

### 〈漆芸〉

### 〈木工〉

### 〈ガラス工芸〉

1 藤田 喬平	飾管朱雀	1978
2 "	飾管・しだれ櫻	1985

常設収蔵作品展

「浜口陽三・深沢幸雄の世界」

浜口陽三、深沢幸雄の銅版画を中心に個性あふれる作品を年代を追って紹介した。

会期 平成10年11月21日(土)～12月6日(日) 14日間

展示点数 51点

入場者数 18,929人

1	浜口 陽三	レダ	1951	27	深沢 幸雄	遺伝 (流れ)	1964
2	〃	顔	1954	28	〃	古い楽譜 (記号)	1965
3	〃	うさぎ	1955	29	〃	土と火の祝祭	1966
4	〃	パリの屋根	1956	30	〃	女帝	1967
5	〃	緑のぶどう	1958	31	〃	神威A	1971
6	〃	ういきょう	〃	32	〃	悠久に続く赤い線	〃
7	〃	ざくろ	〃	33	〃	窓	1972
8	〃	白菜	1960	34	〃	星の門	〃
9	〃	ピーマンのある静物	〃	35	〃	凝視 (青)	1973
10	〃	ポプラ	1961	36	〃	青い裸像A	1975
11	〃	赤い鉢と黒いさくらんぼ	1966	37	〃	掌の中の影	1976
12	〃	190と1匹	1975	38	〃	凍れる歩廊(ベーリング海峡)	1978
13	〃	さくらんぼと青い鉢	1976	39	〃	影の中の恋人	〃
14	〃	1/4のレモン	〃	40	〃	りんごの中の夜A	〃
15	〃	二匹の蝶	1977	41	〃	この遙かな遠い道	1979
16	〃	8つのクルミ	〃	42	〃	天空を計る	〃
17	〃	西瓜	1981	43	〃	湾頭に開く花	〃
18	〃	緑の毛糸	〃	44	〃	アシェンダの地下にて	1980
19	〃	ロビーナのさくらんぼ(7枚組)	〃	45	〃	星屑劇場	1983
20	〃	びんとレモン	1983	46	〃	憂愁市場 (迷路)	1985
21	〃	てんとう虫 (7枚組)	1984	47	〃	小鳥紳士	1988
22	〃	黄色い編み棒	1985~89	48	〃	樹精	1990
23	〃	22のさくらんぼ	1988	49	〃	ロック	〃
24	深沢 幸雄	ダンテ「神曲」(地獄篇)より チェルベロ	1957	50	〃	長い飛行機の旅	1991
25	〃	愛憎	1960	51	〃	白い抒情の人	1992
26	〃	飛天挽歌	〃				

## 「書の世界」

房総の代表的な書家を中心に、多様な書の表現を紹介した。

会期 平成11年1月30日(土)～3月22日(月) 45日間

展示点数 22点

入場者数 20,195人

1	浅見 喜舟	崔子玉座右銘	1967	12	小暮 青風	一閑人	1990
2	〃	無事	1973	13	子安 花邨	バイロンの言葉	1966
3	浅見 錦龍	九十九里	1960	14	鈴木 方鶴	一笑千山青	1984
4	今関 倭竹	山峡の水	1964	15	高沢 南総	春風秋月	1965
5	〃	若草山	1986	16	高宮 金陵	山部赤人歌	
6	江川 碧潭	龍溪山		17	種谷 扇舟	故郷之山河	1971頃
7	大石 隆子	待君	1975	18	千代倉桜舟	宗左近の詩	1988
8	大野 虚舟	子供の情景—記号探しのパズル	1985	19	〃	愛・焰・夢	1997
9	小川 瓦木	叙情	1959	20	中台 邱園	盧綸詩	1986
10	金子 聰松	孟浩然詩	1992	21	中村 象閣	古泉千権の歌	1972
11	小暮 青風	万葉集東歌	1975	22	福田 丞洲	摩訶般若	1993

## 「美術の中の表現・花」

「美術の中の表現・花」では、「花」をテーマに日本画・洋画・版画・工芸の作品を紹介した。

会期 平成11年1月30日(土)～3月22日(月) 45日間

展示点数 63点

入場者数 20,195人

## 〈日本画〉

1 浅井 忠	梅	1892	11 大久保 作次郎	お茶どき	1950	
2 "	蓮と蘭の図	1902~07	12 大野 隆徳	ジョッキにさせるバラ	1931	
3 五十嵐 幹	紅粧	1975	13 小川 イチ	春のおわり	1991	
4 石井 鼎湖	立姿婦人図		14 鹿子木 孟郎	裸女と野花		
5 石井 林響	木華開耶姫	1906	15 岸畑 久吉	神社	1913	
6 "	春秋		16 久保木 彦	夢の詩	1978	
7 "	梅花井泉		17 桜井 忠剛	バラ		
8 稲木 皓人	更衣	1973	18 澤部 清五郎	桜		
9 黒沼 梶山	柘榴	1881	19 田中 善之助	初秋の庭	1932	
10 島多 訥郎	秋趣	1966	20 椿 貞雄	牡丹	1920	
11 鈴木 鶯湖	蜀の棧道図		21 "	春夏秋冬図屏風（春）	1931	
12 椿 椿山	鷄頭遊藝図	1852	22 鶴田 吾郎	千川堤の桜	1912	
13 駒嶋広業・川端玉章	花鳥人物図		23 鳩川 誠一	長屋門	1932~33	
14 富取 風堂	洋蘭	1952	24 "	あもりのあんず	1941	
15 "	華籠	1954	25 "	女たち	1949	
16 "	雨の花	1963	〈水彩画〉			
17 "	初夏	1972	1 浅井 忠	京都工芸学校の庭	1903	
18 松村 乙彦	菊人形	1942	2 中林 傪	けしの花		
19 "	化粧	1947	3 丸山 晚霞	初夏		
20 横尾 芳月	鏡獅子	1981	〈工芸〉			
21 "	夕粧	"	1 秋山 逸生	薔薇山象嵌額	1966	
22 "	春風	1986	2 "	カンナ芝山象嵌襟飾	1973	
23 渡辺阿以湖	牡丹	"	3 土肥 刀泉	銅彩牡丹文扁壺		

## 〈洋画〉

1 浅井 真	山百合	1960~61	5 宮之原 謙	牡丹文盛上水指	1935頃	
2 "	見晴礦泉	1967	6 "	鉄釉牡丹唐草彫文壺	1938頃	
3 "	シンビジュウム	1973	7 横山 朝陽	草花紋搔落皿		
4 "	赤軸の梅	1975	8 "	花鳥文四方水指		
5 安藤 信哉	花束	1970	〈版画〉			
6 板倉 鼎	静物	1927	1 瑛 九	ひまわり銅版画集4「サーカス」	1955	
7 "	金魚	1928	2 関 主税	秋色浅間「信濃路春秋」より	1982	
8 "	裸婦	1929	3 浜口 陽三	草花	1952	
9 伊藤 快彦	ダリア	昭和初期	4 "	版画集「ポルトフォリオ」	1974	
10 梅原 龍三郎	純子像	1968				

## 「彫刻」

「彫刻」では、様々な素材や技法によって表現された彫刻作品を紹介した。

会期 平成11年1月5日(火)～4月11日(日) 84日間  
 展示点数 43点  
 入場者数 37,341人

### 館内展示作品

1 大須賀 力	或るポーズ	1988
2 陰里 寿朗	構造上の森(街かもしれない)	1988
3 金田 雄作	"BedRoom" N氏邸見取図より	1984
4 神野 義衛	呻	1972
5 郡司 和男	詩人の肖像	1976
6 澤田 志功	森は観つめる	1995
7 鈴木 徹	さくら貝	1978
8 長谷川 昂	朝	1979
9 原 武典	水の中の太陽 ('82)	1982
10 舟越 保武	婦人像	1985
11 堀 豊之	姉妹	1984
12 堀川 恭	聖なる佇立	1981
13 松本 雄治	大母神、天を翔ける	1984
14 六崎 敏光	香風	1984
15 山本 正道	エトルリアの壺	1985
16 菊池 一雄	手を挙げる	1977
17 木村 賢太郎	うごめくトルソー VI	1975
18 郡司 和男	天使	1978
19 佐藤 忠良	ラップ帽	1982
20 高田 博厚	ロマン・ラン	1961
21 高村 光太郎	薄命児男子頭部	1905
22 中島 幹夫	風の肖像	1975

23 長谷川 昂 砂あそび 1997

24 柳原 義達 風の中の鳩 1984  
 25 ブールデル 聖母子 1921

### 野外展示作品

1 青木三四郎	憩い	1984
2 大須賀 力	椅子の女	1975
3 "	浅井忠像	1978
4 木村 賢太郎	立像	1956
5 "	うごめくトルソー II	1974
6 "	海	1980
7 酒井 良	時を刻む	1985
8 鈴木 啓子	FEELING-LOVE白いポエジー	1973
9 鈴木 徹	帰雲・春	1978
10 零駒 無藏	過ぎし日のアパート	1989
11 "	集う人々の列に・・・	1991
12 高田 大	リラックス	1984
13 田中 育	草枕の旅	1993
14 中岡慎太郎	"FANTASY"	1993
15 藤野 天光	銃後工場の護り	1938
16 "	ああ青春	1962
17 三木 俊治	行列	1985
18 山崎 英五	地を這うものども XIV	1981

特別展

—没後90年記念—浅井忠展

会期 平成10年6月6日(土)  
 ～7月12日(日) 32日間  
 主催 千葉県立美術館  
 京都国立近代美術館  
 京都新聞社  
 出品点数 288点(洋画135点、日本画30点、  
 工芸32点、図案44点、資料47点)  
 入場者数 19,024人



本展覧会は、日本の近代洋画の先駆者として大きな業績を残した浅井忠(1856～1907)の没後90年を記念して開催したもので、初期(東京時代)から滞欧期を経て晩年(京都時代)までの油彩画、水彩画を中心に、日本画、工芸、図案など、海外所蔵の作品を含む代表作約240点と関連資料を一堂に展覧し、浅井忠の幅広い芸術の全貌を回顧した。

I. 洋画

1	後期	少女の顔	1878	25	秋郊	1887頃
2		徳川家の靈廟	〃	26	藁屋根	〃
3		徳川家の靈廟	〃	27	春畠 [重要文化財]	1888
4		鍛冶橋	1878頃	28	本と花	1889
5		印旛沼	〃	29	農人	1890頃
6		本所風景	〃	30	風景	1892頃
7		玉川	〃	31	小丹波村	1893
8		風景	〃	32	石門子小休止図	1894
9		沢入駅	1884	33	朝鮮大同門図	〃
10		渓流	〃	34	平壤大同江煉光亭	〃
11		室内風景	〃	35	花園口上陸図	1894～95
12	前期	足尾村	〃	36	貔子窩第二軍司令部	〃
13		鎌倉雪ノ下	1885	37	灑家邨天長節祝宴	〃
14		風景(鎌倉)	〃	38	金州城南門外	〃
15		曳舟通り	〃	39	金州城壁上	〃
16		綾瀬川付近	〃	40	露營	1895
17	前期	綾瀬川付近	〃	41	樋口大尉小児を扶くる図	〃
18		農夫帰路	1887	42	旅順戦後の搜索	〃
19		八王子付近の街	〃	43	湯島聖堂大成殿	1896
20		上州風景	〃	44	漁婦	1897
21	後期	農家室内	〃	45	漁村の少女	1897頃
22		室内	〃	46	武藏野(武士鷹狩図)	1898
23		房州白浜	1886～87	47	都鳥助八重成像	1898頃
24		房州白浜	1887	48	老嫗像	〃
				49	母の肖像	1899

## 特別展

50	河合辰太郎像	1899	94	ポートセイド港	1902
51	前期 巴里リクサンブル公園	1900	95	後期 香港	〃
52	花売り	〃	96	菅治兵衛像	1902頃
53	日本髪の少女(板原はつ像)	1900頃	97	風景	1902
54	パリ公園	〃	98	風景	1902~1907
55	グレーの塔	1901	99	後期 永観堂庭内	〃
56	フォンテンブローの森	〃	100	農家	1902
57	フォンテンブローの夕景	〃	101	中沢岩太博士像(肖像)	1903
58	前期 フォンテンブローの森	〃	102	聖護院の庭	〃
59	後期 グレー風景(黄昏)	〃	103	京都高等工芸学校の庭	〃
60	前期 グレーの牧牛	〃	104	秋林	〃
61	グレーの古橋	〃	105	比叡山	〃
62	グレーの洗濯場	〃	106	垂水の浜	〃
63	グレーの柳	〃	107	雲	1903~1907
64	グレーの秋(落葉)	〃	108	古武士(弓を引く武士)	1904
65	編みもの	〃	109	花売り	〃
66	原野樹林	〃	110	白川女	〃
67	フォンテンブローの森	〃	111	安治川風景	1904頃
68	モンクール風景	〃	112	京都の牛	〃
69	収穫	〃	113	奈良の鹿	〃
70	グレーのポプラ(黄葉)	〃	114	武士の山狩(下絵・馬)	1905
71	グレーの秋	〃	115	武士の山狩(下絵・人物)	〃
72	山羊	〃	116	武士の山狩(下絵・人物)	〃
73	グレーの森	〃	117	武士の山狩(1/2下絵)	〃
74	グレーの森	〃	118	武士の山狩(下絵)	〃
75	グレーの教会	1901頃	119	吉野風景	〃
76	グレー風景	〃	120	加茂川風景	1905頃
77	婦人像	〃	121	森	
78	読書(婦人読書)	1902	122	後期 白川村	〃
79	グレー風景	〃	123	網干し	1906
80	グレー雪景	〃	124	前期 干網	〃
81	農婦(老婆)	〃	125	肖像(老母像)	〃
82	農婦	〃	126	風景	〃
83	農婦(肖像)	〃	127	海辺漁夫	〃
84	グレーの橋	〃	128	牛追い	〃
85	河畔洋館	〃	129	干網	1906頃
86	河辺の古城趾	1902頃	130	飛騨高山風景(朝陽)	1907
87	縫物(農婦)	1902	131	鹿ヶ谷(若王子風景)	〃
88	後期 冬木立	〃	132	婦人像	〃
89	後期 ナポリ	〃	133	飛騨高山	〃
90	ヴェネツィア	〃	134	木下廣次像	〃
91	前期 ベニス(裏面:ベニス)	〃	135	曼珠沙華	〃
92	にわとり	〃			
93	洋上の夕陽	〃			

特別展

Ⅱ. 日本画

1	槐庭時代画帖	1868	12	エジプト模様湯呑 [5客]	1902~1907
2	田植之図	1889	13	大原女図湯呑	〃
3	前期 松	1892	14	農家と牛図湯呑	〃
4	後期 梅	〃	15	動物図小皿(キリン、カモシカ)[2枚]	〃
5	後期 金州城外之図	1895	16	動物図四方小皿 [5枚]	〃
6	前期 ほしかき	1897頃	17	白樺・楓図絵皿	〃
7	前期 狂女	1898頃	18	草花盆 [5枚]	1902頃
8	風景	1902~1907	19	鶴蒔絵文庫	1906
9	後期 琵琶法師	〃	20	用箋管「静々」	1907
10	薔薇	〃	21	すみれ模様吸物椀 [10客]	〃
11	蜀黍と鳳仙花	〃	22	七福神蒔絵菓子器	1909
12	小犬	〃	23	遊魚菓子器	〃
13	前期 寒念仏	〃	24	牽牛花蒔絵手管	〃
14	剽盜図	〃	25	絵変わり菓子皿 [5客]	〃
15	農馬之図	〃	26	白川女図小手管	〃
16	パリ婦人散歩図	1903	27	ばら模様茶托 [5客]	1902~1909
17	群鹿	〃	28	農婦像	1902~1907
18	山姥金時図	1904	29	裸婦座像	〃
19	ライオンの図	〃	30	お福の像	〃
20	美人図	1904頃	31	仙人(羅漢)	1903
21	鬼ヶ島	1905	32	ライオン	1906
22	後期 追儻	1906		IV. 図 案	

23	雪中馬	〃	1	けしの花	1900~1902
24	当世風俗歌合〈38図〉	〃	2	鳳凰・波に千鳥	〃
25	参詣	1906~1907	3	鶴(2種)	〃
26	貼交屏風	1907	4	グレー風景(2種)	〃
27	象	〃	5	花瓶	1902~1907
28	秋山大原女	〃	6	南国風景	〃
29	蝦蟇仙人図	〃	7	雲のある風景	〃
30	鍾馗図	〃	8	溪流	〃
			9	けし・猫	1906

Ⅲ. 工芸

1	鳳凰飾皿	1901	10	猪	1906~1907
2	急須(風景)	1902~1907	11	すみれ・ばら	1907
3	農家風俗手塙皿 [10枚]	〃	12	花	1902~1907
4	梅花図筒形花生	〃	13	ダチョウ図	〃
5	向付 [5客]	〃	14	花木	〃
6	向付 [5客]	〃	15	木かげの女	〃
7	湯呑(鯉、蟹、兎) [3客]	〃	16	魚	〃
8	花瓶(白樺)	〃	17	春日野	〃
9	猿蟹合戦図茶器	〃	18	ひまわり	〃
10	高瀬川曳舟図陶板	〃	19	蜀黍	〃
11	雛形香合 [1組]	〃	20	女神	〃
			21	飾り戸棚	〃

特 別 展

22	秋海棠	1902~1907	34	海浜風景 (2種)	1902~1907
23	波	〃	35	塩屋之図	〃
24	萩	〃	36	芝居見物	〃
25	さや豆	〃	37	高瀬川曳舟図	〃
26	花	〃	38	大津絵図 (12種)	〃
27	雨中狐	〃	39	大原女	〃
28	にわとり	〃	40	大原女	〃
29	春風	〃	41	風俗図	〃
30	鶏合せ	〃	42	美人図	〃
31	寒山拾得	1906	43	参詣	〃
32	象上黒人	1902~1907	44	万歳	1907頃
33	比叡山	〃			

※ 前期 6月6日～6月21日／後期 6月23日～7月12日の展示

※ 洋41「樋口大尉小児を扶くる図」は6月6日～7月5日のみの展示

※ 作品名がゴシック体の作品は千葉県立美術館所蔵

〈所蔵機関等〉(五十音順)

愛知県美術館	19
石橋財団ブリヂストン美術館	62, 84, 87, 90
茨城県近代美術館	21
大阪府立中之島図書館	111, 112, 113
神奈川県立近代美術館	50
財団法人木下美術館	108
京都工芸繊維大学美術工芸資料館	101, 114, 115, 116, 117, 118, 日29, 工4, 工22, 工24, 工25
京都国立近代美術館	65, 94, 日10, 日23, 工19, 工20, 工29
京都市美術館	45, 63, 102, 131
京都大学附属図書館	134
宮内庁三の丸尚蔵館	41
郡山市立美術館	1, 12, 17
佐倉市立美術館	35, 92
財団法人泉屋博古館	66, 74, 85, 86, 104, 106, 127
台北市士林国民小学	43
東京国立博物館	22, 27, 42, 51, 58, 59, 60, 64, 70, 76, 77, 78, 80, 88, 89, 91, 95, 99, 122, 124
東京都現代美術館	日27
トリノ市近代美術館	2, 3
町立久万美術館	130
財団法人中野美術館	25, 123, 126
新潟県立近代美術館	29
ひろしま美術館	18

## 特別展

### 「自然を描く —ミレーとバルビゾン派の画家たち—」

会期 平成10年12月12日(日)～  
平成11年1月24日(日) 30日間  
展示点数 115点  
入場者数 8,946人

ミレーを中心とするバルビゾン派の画家たちは、自然やそこに生きる農民の日常生活を積極的に描いた。彼らの表現は、それまでのフランスの伝統的な風景画とは異なる近代的な自然観に基づくもので、後の印象派の絵画を育む基礎となった。

本展では、バルビゾン派の画家たちが自然との対話により描いた作品を紹介し、彼らの業績を回顧した。



特別展 **自然を描く**  
—ミレーとバルビゾン派の画家たち—

1998.12.12(土)～1999.1.24(日)

千葉県立美術館  
CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

千葉県立美術館  
CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

1	ジョルジュー・ミ歇ル	広大な風景中の小径を行く旅人	28	ディアズ・ド・ラ・ベニヤ	森の中で薪を集める人	1867年	
2	〃	山路を行く樵	1820-40年頃	29	〃	森の中の農婦	1868年
3	〃	風車のある風景	1820-40年頃	30	〃	ジプシーの少女達	1874年
4	ポール・ユエ	谷間の川		31	〃	森の中での休息	
5	〃	森の中のいなか家		32	ジャン・フランソワ・ミレー	母と子	1843-45年頃
6	〃	山羊飼いと山羊の群れ	1825-30年頃	33	〃	まどろむ刈り入れ人たち	1847-48年頃
7	〃	海辺の断崖		34	〃	夕暮れの村の道	1848-49年頃
8	ガブリエル・ドカン	夕餉		35	〃	葦の中の妖精	1850年
9	カミーユ・フレール	川のほとりの藁ぶきの家	1854年	36	〃	羊飼い	1850年代中頃
10	カミーユ・コロー	フォンテンブローの風景	1830-35年頃	37	〃	羊の毛を刈る女	1860年
11	〃	フォンテンブローの石切場	1835-40年頃	38	〃	垣根に沿って草を食む羊	1860-61年頃
12	〃	ヴィル・ダヴレーの池	1847年	39	〃	鶯鳥番の少女	1865年
13	〃	ナポリ近郊の思い出	1860-65年頃	40	〃	家路に就く羊飼い	1873-74年頃
14	〃	大きな木のそばの浅瀬	1870年頃	41	〃	生きている譜面台	1840-41年頃
15	〃	田園の夕暮れ	1870-72年頃	42	〃	カップを持って立っている婦人	1850-52年頃
16	〃	森の中の水飲み場	1872年頃	43	〃	二人の羊飼いの女	1852-56年頃
17	〃	風景		44	〃	編物のお稽古	1853年
18	テオドール・ルソー	木立		45	〃	グリュシエの農園	1855-63年頃
19	〃	ヴェルノン近くのセーヌ河		46	〃	牛に水を飲ませる農婦	1862-64年頃
20	〃	バルビゾンの農場	1850-55年頃	47	〃	羊飼いの少女と羊の群れ	1868年頃
21	〃	ジュラの農場		48	〃	種をまく人	1851年
22	〃	風景		49	〃	牛乳をかき回す女	1855年
23	レイモン・ブラカサ	牛のいる風景	1844年	50	〃	肥料を取り込む農夫	1855年
24	カール・ボドメル	山の湖の鹿		51	〃	母親の心づかい	1862年
25	ニコラ=ルイ・カバ	バルビゾンの平野風景		52	コンスタン・トロイヨン	水飲み場	
26	ディアズ・ド・ラ・ベニヤ	フォンテンブローの森		53	〃	水を飲む牛	
27	〃	フォンテンブローの森の中	1856年	54	〃	水を飲む馬	

特 別 展

55	コンスタン・トロワゾン	河辺の道	1860-65年頃	86	エーモン・シャルル・ラピネ	釣り人	
56	〃	えさの時間		87	アドルフ・アピアン	リクス近郊の夕べ	1864年
57	〃	川で水を汲む人々	1860年頃	88	オーギュスト・ラヴィエ	モレステル風景	
58	ジュール・デュプレ	ベリー地方の農家	1833-35年頃	89	〃	モレステルの谷	
59	〃	グレヴィルの海岸	1840-45年頃	90	アントニオ・ファン・ターニ	十月、牧場の夕べ	1860年
60	〃	森の中一夏の朝	1840年頃	91	〃	牛を追う農婦	1862年頃
61	〃	森のはずれ	1860-69年頃	92	〃	森の空地の農婦	1865年頃
62	〃	大きな柏の木	1880-89年頃	93	ルイ=エメ・ジャビー	羊を連れ帰る羊飼い	1884年
63	〃	嵐の前		94	レオン・リシェ	小川で釣りをする人	1869年
64	ギュスターヴ・クールベ	山間の滝	1866-70年頃	95	アルフレッド・ド・クニフ	春の水辺	1875年頃
65	〃	雪の中の小鹿	1869年頃	96	アレクサンドル・ド・フォー	森の中での休息	1871年
66	〃	サントーバンの海	1872年	97	〃	羊飼いと羊の群れ	
67	〃	風景	1875-77年頃	98	〃	羊の番	
68	シャルル・ジャック	鶏		99	バー・ブレオー	バー・ブレオーの十字路と牛と羊の群れ	1864年
69	〃	羊の群れ	1870-80年頃	100	フェルデイナ・セラマノ	羊飼いと羊の群れ	
70	〃	木の下で憩う羊飼いと羊の群れ		101	サミュエル・ラヴィエ	森の中の沼	
71	〃	森の中	1871年	102	ジョゼフ・アルビニー	小屋のある夏の風景	1888年
72	〃	池で牛に水を飲ませる牛飼い		103	〃	村へ続く道にいる人影	1882年
73	〃	豚を追う男	1890年	104	ルネ・ヴェロン	サンリスの池	1875年
74	フランソワ・ドービニー	ヴァルモンドワの小川	1844年	105	レオン・シャブリイ	羊の群れを連れ帰る羊飼い	
75	〃	オワーズ川のほとり	1865年	106	ローザ・ボヌール	猪	
76	〃	マントのセーヌ川	1870年	107	ルネ・ジョゼフ・メーラー	バルビゾン近くの牧場	1850年頃
77	〃	川のそばで休息する羊飼い	1877年	108	カミュー・デルピー	川辺一夏	
78	〃	かわいいロバ		109	ジュリアン・デュプレ	羊飼いと羊の群れ	
79	〃	二人の農婦		110	フリードリッヒ・マリ	羊の飼育	1879年
80	〃	土手の上の林	1852年	111	カール・ドービニー	田園の夕暮れの印象	
81	レオン・デュプレ	田園風景		112	エマニュエル・ダモワ	川辺で洗濯する農婦たち	1872年
82	〃	沼地で休息する牛飼いの少年	1846年	113	〃	お花畠	1897年
83	〃	田園の羊の群れ	1854年	114	アントワーヌ・ヴァロン	モンマルトルの丘	
84	フランソワ・フランセ	木陰の水浴	1861年	115	シャルル・カザン	川辺の夕日	
85	アントワーヌ・シャントル	風景					

〈所蔵先機関等〉

栃木県立美術館	No.12
村内美術館	No.36
山寺後藤美術館	No.2, 6, 14, 52
山梨県立美術館	No.3, 48, 51, 60

※作品名がゴシック体の作品は、

千葉県立美術館所蔵作品

## 企画展

### 房総の美術家シリーズ(25) 木村和一展 —染の世界—

会期 平成10年9月5日(土)～  
10月11日(日) 32日間  
展示点数 111点  
入場者数 13,051人

企画展〈房総の美術家シリーズ〉は、房総に生まれ、あるいは定住して近代日本の美術界で活躍し、美術振興のために貢献した美術家たちの再発見と顕彰を目的とした展覧会である。

今回は、昭和初期の工芸運動のリーダーのひとりとして活躍し、鴨川に在住した染色工芸家・木村和一(1888～1963)に焦点を当て、作品66点と関係資料により、これまでほとんど紹介されたことのなかった彼の‘人と芸術’を再発見した。



#### I. 作品

No.	作品名	制作年	
1	少女華文和染衝立	1936	25 春景図小屏風
2	葡萄図六曲屏風	1926～1944	26 海女三笑
3	花と虫(帯)	1937	27 熊鷹
4	弁柄地名古屋帯	1937頃	28 梅
5	風呂先屏風	1939	29 寒牡丹図小屏風
6	立葵模様壁掛	〃	30 梅
7	和染小屏風野菜譜	〃	31 熊鷹(秋景)
8	雛人形染軸	〃	32 海中図染額
9	鍾馗図染軸	〃	33 新緑図染額
10	柿桃筆図テーブル掛	〃	34 秋景図染額
11	座布団(三友模様)	〃	35 紅白梅図屏風
12	草花図染額	〃	36 紫陽花図小屏風
13	燕子花・八橋図衝立	1949頃	37 鶴図小屏風
14	地紙文衝立	〃	38 鶴図小屏風
15	農婦	〃	39 海女
16	波図小屏風	〃	40 海女壁掛
17	鷹	1950	41 秋景図染軸
18	鼠地牡丹文名古屋帯	1946～1954	42 草花図染額
19	鼠地薔薇文名古屋帯	〃	43 流水春景図屏風
20	金地花木文名古屋帯	〃	44 立葵図小屏風
21	朝顔図小屏風	〃	45 風炉先屏風
22	伎楽面模様壁掛	1954	46 霽小紋着物
23	伎楽面模様壁掛	〃	47 茶地海の幸文名古屋帯
24	春景図壁掛	1954頃	48 藍地陶器模様着物
			49 山吹色牡丹文名古屋帯
			50 銀鼠地魚文名古屋帯

## 企画展

51	山吹色魚文名古屋帶	1955~1963	14	九科会第1回展覧会目録	1926
52	亀甲花文帯地	〃	15	『実用手工芸大講座 女子部』	1925
53	牡丹文壁掛	〃	16	第1回工芸美術展覧会出品目録	1926
54	海	〃	17	无型第5回展覧会目録	1931
55	漁村	〃	18	无型第6回展覧会目録	1932
56	農婦	〃	19	実在工芸美術会同人 作品展覧会案内葉書	1937
57	海女	〃	20	『家庭科学大系(37)染色の理論と実際』	1927
58	海女	〃	21	『工芸美術を語る』	1930
59	羅漢	〃	22	新興染織工芸陳列会目録	1934
60	觀音	〃	23	染人社第3回展覧会案内葉書	1947
61	草花図染額	〃	24	染人社小品展案内葉書	1949
62	梅	〃	25	第7回染人社工芸展案内葉書	1951
63	筍と椎茸	〃	26	日本染織作家集団声明	1955
64	静物	〃	27	日本染織作家集団第1回展覧会	〃
65	和装用ハンドバッグ	〃	28	日本染織作家集団現代染織工芸展案内葉書	1956
66	和装用ハンドバッグ	〃	29	染彩画展作品集ほか	1960ほか
			30	長浜重太郎染色額面頒布会目録	1949以前

### II. 資 料

No.	資料名	年代			
1	木村和一氏染物作品展覧会目録	1924	32	十束敏染色工芸展目録	1956
2	木村和一書簡（渡辺進宛）	〃	33	木村和一作品頒布会目録	1962頃
3	染色科教習録	1922	34	歌集	1913
4	農民美術始業記念色紙	1923	35	工房雑記	1927~1944
5	倉田白羊「一切録」	〃	36	龍光山房句集	1946
6	農美（回覧雑誌）	〃	37	昭和貳拾參年度日記	1948
7	農民美術研究所事業計画	1924	38	木村和一写生帖	1926~1944
8	『農民美術』1巻2号	〃	39	木村和一自用印	1926~1963
9	財團法人日本農民美術研究所概要	1925	40	木村和一使用染色用具	
10	八月会々名簿	〃	41	下図〔早春（紅白和染壁掛）〕	1929頃
11	東京府主催副業品製作講習会計画	1926	42	下図〔染色獅子舞二曲屏風〕	1933頃
12	旅費精算書	1927	43	下図〔花と虫〕	1937頃
13	九科会の趣意／九科会規定	1925	44	下図各種	1926~1963

### 〈資料の所蔵機関〉

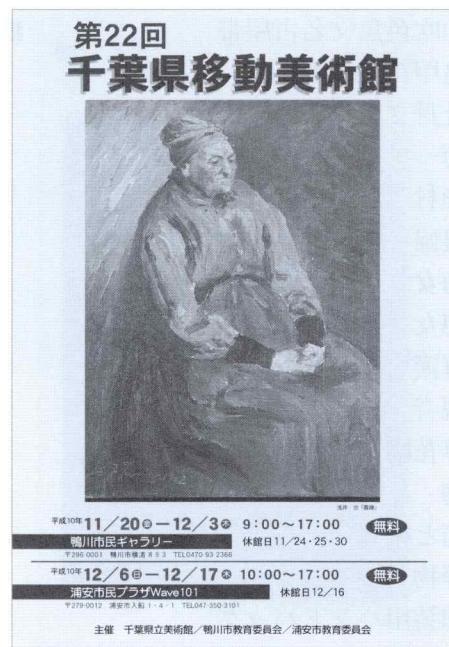
- 東京都現代美術館 2, 13, 14, 16  
 上田市山本鼎記念館 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12  
 国立国会図書館 15, 21, 22

## 企画展

### 第22回千葉県移動美術館

会 場	1 鴨川市民ギャラリー 2 浦安市民プラザWave101
会 期	1 平成10年11月20日(金)～ 12月3日(木) 2 平成10年12月6日(日)～ 12月17日(木)
展示点数	39点
入場者数	1 583名 2 451名

本館の収蔵作品を中心に、第50回千葉県美術展覧会（県展）の受賞作品を一部加えた移動展覧会を、上記の期間及び会場で開催し、美術作品を身近に鑑賞できる機会を提供した。



#### 〈日本画〉

1 関 主税	滝	
2 富取 風堂	朝光	1931
3 松尾 敏男	原野	1971
4 横尾 芳月	澄心	1980

#### 〈洋 画〉

1 浅井 忠	農婦	1902
2 石橋 武治	白鷺のいる風景	1953
3 梅原 龍三郎	竹窓読書図	1937
4 黒田重太郎	女と小犬	1928
5 小林 数	アマダブラム峰(ヒマラヤ)	1984
6 櫻田 精一	冬の並木道	1965
7 篠崎 輝夫	絵馬による	1976
8 鰯 利彦	房州伊豫ヶ岳	1970頃
9 高橋 規矩治郎	滞船	1970
10 椿 貞雄	鋸山から見た房総半島	1948
11 鶴田 吾郎	朝日連峰	1951-54
12 都鳥 英喜	洛北の早春	1934

#### 〈彫 刻〉

1 高村 光太郎	手	1918
2 長谷川 昂	砂遊び	1997
3 舟越 保武	婦人像	1985
4 本郷 新	裸婦	1952

#### 〈工 芸〉

1 会田 富康	青銅双鳥置物	
2 秋山 逸生	木画箱	1969
3 香取 秀真	烏銅鳳凰香炉	1911
4 鈴木 治平	湿原の詩	1985
5 藤田 喬平	飾管・しだれ櫻	"
6 山本 正年	瑞光	

#### 〈書〉

1 浅見 喜舟	麟出鳳翔	1973
2 金子 聰松	視思明	"
3 小暮 青風	石見の海	1979
4 高澤 南総	墨縁	"

#### 〈版 画〉

1 池田 満寿夫	ウエルカムB	1969
2 池田 良二	Scattered Seeds	1979
3 東山 魁夷	リトグラフィ集「冬の詩」湖岸	"
4 "	"	"
5 "	"	"
6 星 襄一	陽(林)	1978

#### 第50回千葉県美術展（県展）出品作品

1 實方 晶子	サバンナ(日本画・県展賞)	1998
2 土橋 豊	ギリシャ神話(ニケ)(洋画・県展賞)	"
3 靈園 鴻甫	近作二首(書・県展賞)	"

## 普 及 事 業

---

美術講演会を、展覧会に併せ2回開催した。

さらに、特別展「自然を描く—ミレーとバルビゾン派の画家たち」会期中に、ミュージアムコンサート「木管五重奏による名曲の調べ」を開催した。

実技講座は、日本画、洋画、彫刻（木彫）、陶芸、金工、書、版画の7種7講座（延67日）を開催した。

図書は、191冊収集した。現在5,168冊を収蔵し、情報資料室において県民の利用に供している。

そのほか、友の会事業による実技講座3種9講座（延50日）、美術鑑賞の旅等をはじめ、博物館実習生の受け入れ（6大学8人）などに協力した。

## ■ 美術講演会

美術に対する関心や理解を一層深めるため、特別展に併せて講演会を実施した。

1回目の「浅井忠の人と芸術」では、浅井忠の生涯の活動をはじめ、会場に展示してある作品を中心に、表現された芸術の特徴など多彩な視点による講演が行われた。

2回目の「風景画の流行はだれが作ったか」では風景画の歴史やミレーの作品及び画業等について、エピソードなどを交えた幅の広い内容の講演が行われた。

また、各講師ともスライドを用いて講演された。

1 6月20日（土）

「浅井忠の人と芸術」 216人  
島田康寛（京都国立近代美術館学芸課長）

2 1月16日（土）

「風景画の流行はだれが作ったか」 234人  
馬渕明子（日本女子大学教授）  
(数字は参加者数)



## ■ ミュージアムコンサート

特別展「自然を描く—ミレーとバルビゾン派の画家たち—」の開催に併せ、「木管五重奏による名曲の調べ」と題して、1月9日、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバーによりコンサートを行った。

モーツアルト（ディヴェルティメント第14番）やビゼー（子どもの遊び）などのクラシックの名曲や、ミョー（ルネ王の暖炉）などの映画音楽を含む全8曲を演奏し、好評を得た。

### 〈演奏者・司会〉

金子博陽（フルート）／姫野 徹（オーボエ）／平野吉彦（クラリネット）／神山 純（ファゴット）／大森啓史（ホルン）／中里かほり（司会）

参加者数 204人



## ■ 実技講座

### (1) 洋画講座

期　日 平成10年5月12日(火)・13日(水)・  
15日(金)・16日(土)・19日(火)・  
22日(金)・23日(土)・26日(火)・  
27日(水)  
(9日間／うち講師の指導日数は5日間)

講　師 羽生智樹氏

受講者数 29人

内　容 着衣と裸婦をテーマにデッサン、構図、彩色など油彩画の基礎的技法を学んだ後、より幅広い表現について学習した。

### (2) 日本画講座

期　日 平成10年6月4日(木)・5日(金)・  
6日(土)・7日(日)・9日(火)・  
10日(水)・11日(木)・13日(土)・  
14日(日)・17日(水)・18日(木)・  
19日(金)  
(12日間／うち講師の指導日数は7日間)

講　師 棚橋文子氏

受講者数 20人

内　容 花、果物、人物等のモチーフにより制作した。岩絵具、にかわ、筆、紙等の材料・用具の取り扱い方など基礎的な学習をした後、彩色の技法を中心に学習した。

### (3) 陶芸講座

期　日 平成10年6月23日(火)・24日(水)・  
25日(木)・7月10日(金)・14日(火)・  
15日(水)・16日(木)・30日(木)・  
8月6日(木)  
(9日間／うち講師の指導日数は5日間)

講　師 鎌田和平氏

受講者数 30人

内　容 信楽土を素材として、花瓶、食器、茶碗などを制作した。また、染付や鉄絵などの絵付けや彩土による装飾のほか、ろくろ技法、釉薬調合、窯詰めなどについても併せて学習した。

### (4) 版画講座

期　日 平成10年11月18日(水)・19日(木)・  
20日(金)・21日(土)・22日(日)・  
25日(水)・26日(木)・27日(金)・  
28日(土)・12月1日(火)・2日(水)・  
3日(木)  
(12日間／うち講師の指導日数は7日間)

講　師 増田陽一氏

受講者数 19人

内　容 銅板、亜鉛板を素材に、凹版画の制作を行った。版画の材料や用具の取り扱い方、エッチングやアクワチントなどの各種技法や刷りの技術について学習した。

### (5) 彫刻講座

期　日 平成10年8月26日(水)・27日(木)・  
28日(金)・9月2日(水)・3日(木)・  
4日(金)・8日(火)・9日(水)・  
11日(金)・12日(土)  
(10日間／うち講師の指導日数は6日間)

講　師 福永　巨氏

受講者数 20人

内　容 米松を素材に、動物や人物、抽象形態など自由に制作した。のみやチェンソー等の各種工具類の取り扱い方を学び、木の彫刻技法の幅広い表現方法を学習した。

### (6) 書講座

期　日 平成10年12月8日(火)・9日(水)・  
10日(木)  
(3日間／うち講師の指導日数は3日間)

講　師 宇津木雀聲氏

受講者数 26人

内　容 漢字・かなの臨書を通して、書の歴史、書の味わい方、様々な表現方法を学習した。また、手紙やはがきの書き方などの実用書道も学習した。

### (7) 金工講座

期　日 平成11年2月16日(木)・17日(金)・  
18日(火)・20日(水)・21日(木)・  
24日(金)・25日(火)・27日(水)・  
28日(木)・3月2日(火)・3日(水)・  
4日(木)  
(12日間／うち講師の指導日数は7日間)

講　師 小林正利氏

受講者数 24人

内　容 動物・人物・生物・風景など自由なテーマで銅板レリーフの制作を行った。脂台や各種タガネの製作や取り扱い方をはじめ、鍛金や彫金の基礎的技法、また金属の着色方法などについて学習した。

## ■ 第3回こども写生会

千葉県立美術館では、次代を担うこどもたちに、創作の喜びを体験してもらうとともに、美術館との触れ合いを通して、美術館活動に対する理解を深めてもらうため、写生と展示による「こども写生会」を開催した。

写生会 6月27日(土) 参加者数 100人  
展覧会 7月22日(水)~26日(日)  
表彰式 8月25日(土)

最優秀賞 千葉大学教育学部附属小学校  
第2学年 山岸未弥  
優秀賞 千葉市立大森小学校  
第2学年 児玉隼人  
浦安市立日の出小学校  
第3学年 森 圭史  
八街市立朝陽小学校  
第4学年 成田茉奈実  
袖ヶ浦市立藏波小学校  
第5学年 高橋千恵  
成東町立緑海小学校  
第6学年 渡辺陽子  
努力賞 千葉市立金沢小学校  
第1学年 田中美祐  
船橋市立葉山台南小学校  
第2学年 丸山祐貴  
千葉大学教育学部附属小学校  
第3学年 入江香月  
千葉大学教育学部附属小学校  
第4学年 須藤友理江  
市川市立平田小学校  
第5学年 秋山 圭  
大網白里町立増穂北小学校  
第6学年 高取飛鳥



## ■ 情報資料室

毎週火～金曜日（祝日・休館日を除く）12時30分～4時30分に開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、ポストカード、情報誌などにより、美術情報を提供した。なお、10年度の収蔵図書については134冊を購入し、57冊の寄贈を受け、美術情報資料の充実を図った。

### 分類別図書数

(平成11年3月31日現在)

区分	平成9年度まで	平成10年度	計
美術総記	1,524	84	1,608
絵画	1,484	48	1,532
彫刻	249	3	252
工芸	362	12	374
書	162	2	164
版画	127	18	145
デザイン・建築	77	7	84
写真・映像	180	1	181
その他	45	5	50
雑誌(合冊・復刻)	357	0	40
一般図書	410	11	421
合計	4,977	191	5,168

区分	平成9年度まで	平成10年度	計
購入図書	2,733	134	2,867
寄贈図書	2,244	57	2,301
合計	4,977	191	5,168

(展覧会図録を除く)

## ■ 活動協力

### □千葉県立美術館友の会

#### 1. 目的

“みる・かたる・つくる”という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。

#### 2. 組織

- (1) 会員数 個人会員546人 賛助会員2人  
(2) 役員 名誉会員10人 会長1人 副会長3人  
監事2人 理事若干名

### 3. 事業

- (1) 友の会だより「しおさい」の発行、年4回。  
各1000部印刷し、会員に配付した。
- (2) 第22回葉美会展の開催  
会期 平成10年8月25日(火)～30日(日)  
出品者40人 展示点数67点
- (3) 秋の美術鑑賞の旅  
美術品や文化財を訪ねながら、親睦を深めるために実施した。  
1・日 時 10月8日(木)  
2・行 先 板谷波山記念館  
宇都宮美術館  
栃木県立美術館  
栃木県立博物館  
鹿沼市立川上澄生美術館
- 3・参加者数 49人
- (4) 館事業への協力  
館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に参加した。
- (5) その他  
テレホンカード・絵葉書・額縁・額絵・図書等の販売

### 4. 平成10年度 友の会実技講座

#### 洋画入門講座(1)

期 日 4月30(木)・5月1(金)・2(土)・6(水)・  
7(木)・9(土)(6日間)  
講 師 根岸茂行氏  
受講者数 33人

#### 洋画入門講座(2)

期 日 6月6日(土)・7(日)・13(土)・14(日)・  
20(土)・21(日)(6日間)  
講 師 池田敏男氏  
受講者数 22人

#### 洋画入門講座(3)

期 日 7月3(金)・4(土)・5(日)・7(火)・8(水)・  
9(木)(6日間)  
講 師 渡辺 晋氏  
受講者数 38人

#### 洋画入門講座(4)

期 日 8月18(火)・19(水)・21(金)・22(土)・  
23(日)・25(火)(6日間)  
講 師 根岸茂行氏  
受講者数 36人

#### 洋画入門講座(5)

期 日 10月23(金)・24(土)・25(日)・27(火)・  
28(水)・29(木)(6日間)  
講 師 松沢茂雄氏  
受講者数 63人

#### 洋画入門講座(6)

期 日 12月4(金)・5(土)・8(火)・10(木)・  
12(土)・13(日)(6日間)  
講 師 根岸茂行氏  
受講者数 31人

#### 日本画入門講座

期 日 11月4(水)・5(木)・6(金)・7(土)・10(火)・  
11(水)(6日間)  
講 師 斎藤 悅氏  
受講者数 18人

#### デッサン入門講座(1)

期 日 7月28(火)・29(水)・31(金)・8月1(土)(4  
日間)  
講 師 御園正男氏  
受講者数 27人

#### デッサン入門講座(2)

期 日 2月3(水)・4(木)・5(金)・9(火)(4日間)  
講 師 根岸茂行氏  
受講者数 37人

#### □博物館実習

各大学の依頼により、学芸員資格取得希望の  
学生を下記のとおり受け入れた。

平成10年7月21日(火)～7月27日(月)  
(日曜日を除く6日間)  
学習院大学2人、実践女子大学1人、千葉経  
済大学1人、東京工芸大学1人、トキワ松学園横  
浜美術短期大学1人、明治学院大学2人  
(計6大学、8人)

## □ 貸出資料一覧

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
齋 藤 悅	五台山大白塔	佐倉・房総ゆかりの画家	10.4/15~5/24 佐倉市立美術館	佐倉市立美術館
椿 直 雄	自画像	画文交響 —飯田蛇笏をめぐる画人たち	10.4/25~6/28 山梨県立文学館	山梨県立文学館 山梨県立美術館
高 山 宇 一	波濤の歌	高山宇一乍寿記念展	10.4/29~5/17 東京国際美術館	東京国際美術館 七戸町立高山宇一記念館
東 山 魁 夷	門	東山魁夷展	10.5/16~6/21 富山県立近代美術館 10.6/27~8/2 千葉市美術館	富山県立近代美術館 千葉市美術館
石 井 柏 堂	老太々 安倍川 聖フランチスカ寺院 信州風景 熱海付近	中村善策の人脈	10.6/6~7/26 市立小樽美術館	市立小樽美術館
安 井 曾太郎	一笑百印 養心王鉢 故弄譏諷	毎日書道展第50回記念 「現代の書50年」展	10.7/8~7/19 上野の森美術館 10.7/25~7/30 京都市美術館	毎日新聞社
中 西 利 雄	南仏風景 トリエール・シュル・セーヌ 晝り日の離宮と駒	中西利雄展	10.8/6~9/6 静岡アートギャラリー	静岡アートギャラリー
和 田 英 作	塚本清肖像 絵葉書「富士図」 絵葉書「達摩王サイク図」 絵葉書「少女図」 絵葉書「塚本清像」 絵葉書「ひまわり」	和田英作展	10.8/1~9/20 静岡県立美術館 10.10/1~11/3 鹿児島市立美術館	静岡県立美術館 鹿児島市立美術館
信 田 洋	透壺 赤銅張小簞	佐倉・房総ゆかりの画家	10.8/8~10/2 佐倉市立美術館	佐倉市立美術館
椿 直 雄	牡丹	院展にみる山形の100年展	10.9/4~9/27 天童市美術館 10.10/2~10/25 致道博物館 10.10/30~11/23 山形美術館	天童市美術館 致道博物館 山形美術館
中 西 利 雄	人物 四人の女	没後10年 小磯良平展	10.9/12~11/8 兵庫県立近代美術館	兵庫県立近代美術館 神戸市立小磯記念館 神戸新聞社
ル ド ピ ニ ト ロ ワ イ ョ ン	バルビツィの農場 ヴァルモントワの小川 河边の道	自然に帰れ—ミレーと農民画—	10.9/15~12/6 山梨県立美術館	山梨県立美術館
足 立 源一郎	カーニュにて(オーリーブ畑)	バトロンと芸術家	10.9/19~11/3 群馬県立近代美術館	群馬県立近代美術館
安 井 曾太郎	熱海付近	生誕110年記念 安井曾太郎展	10.9/23~10/19 千葉そごう美術館 10.10/29~11/3 京都高島屋 10.11/13~12/13 そごう美術館	千葉そごう美術館 京都高島屋 そごう美術館
津 田 信 夫	一點玲瓈	くかたちの領分 —機能美とその転生—	10.10/3~11/23 東京国立近代美術館	東京国立近代美術館
浅 石 石 井 川 下 合 藤 山	柏 嘉 幸 鈴 次 新 志 晚	フォンテンブローの森 病児 水辺 久々子湖 春日日 ダリア 長野水内風景	丸山晩霞と日本の水彩画の流れ	10.10/9~11/8 長野県信濃美術館
立 石 秀 春	九十九里浜	第50回県展	10.10/17~10/30 千葉県立美術館	立石秀春
浅 井 忠	葦屋根 フォンテンブローの夕景 婦人像 花木 魚 飾り戸棚	意味とイメージ	10.10/17~11/23 和歌山県立近代美術館	和歌山県立近代美術館
秋 元 恒	高生垣の家	秋元恒作品展	10.10/23~10/28 朝日ギャラリー	秋元恒
浅 井 中 忠 之 助	パリ公園 パリの女	京都の100年・パリの100年	10.11/3~11.1/17 京都市美術館	京都市美術館 京都市新聞社
東 松 尾 鮎 敏 虎 男	春雪 歷程	戦後日本画の歩み	10.11/14~12/13 鳥取県立博物館	鳥取県立博物館
板 倉 花 卷	春水滴四澤	生誕100年・没後30年記念展 白衣無縫の書家 板倉花巻展	10.11/28~11.1/17 茂原市立美術館	茂原市立美術館
フ ォ ン タ ネ ー ジ ク ー ル ベ	川辺の二頭の牛 雪の中の小鹿	風景の見え方	10.12/13~11.1/28 川村記念美術館 11.1/30~3/30 川村記念美術館	川村記念美術館
大 久 保 部 美 作 次 郎	庭の木陰 婦人像	日本の印象派	11.2/4~3/14 下関市立美術館	下関市立美術館
若 木 山	波上海女図	日本美術院創立100周年記念展	11.2/28~4/8 福岡三越ギャラリー	日本美術院 西日本新聞社
浜 口 陽 三	赤い蝶 ロビーナのさくらんぼ 青い蝶 青い蝶 てんとう虫 3匹の蝶 3匹の蝶 カラフルニア・チエリー カラフルニア・チエリー 緑のギブラン 緑のさくらんぼ 青紫色の蝶	浜口陽三展	11.3/7~4/4 佐倉市立美術館	佐倉市立美術館
関 小 堀 主 稔 進	潤声 逆光	青の表現 —歌会始御題にちなみ—	11.3/10~4/11 式年遷宮記念神宮美術館	式年遷宮記念神宮美術館
石 井 雙 石	種竹齋 隣火互鶴 七睡 故人今人如流水 虎威将軍章 南極大守 五里霧中 半仙 醉郷侯印 非心非佛 春晚落華餘碧草 不第羊 清風明月醉時歌 雙松在前軒 Tiger 九思右考 人墨樂 一笑百印 借宅亦種竹 虎威將軍章 人生一葉 清風自來 一笑百印由来	篆刻の巨匠 石井雙石	11.3/13~3/22 かづしかシンボニーヒルズ	葛飾区文化振興財团

## 調査・収集事業

---

展覧会企画や資料収集等に関連して、調査研究を進めた。資料収集については、日本画6点、洋画17点、工芸4点、書7点を新たに収藏した。

この他、基金により洋画9点を購入した。

## ■ 収藏資料 (寸法は、平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行で表示。) (単位はcm、番号に○印のあるものは購入。)

### 〈日本画〉

1 大岩成徳	玉蜀黍 1980	絹本彩色 116.7×90.9	10 佐々木一郎	漁村 1981頃 キャンバス・油彩 130.0×162.0
2 大岩成徳	南天に小禽 1982	絹本彩色 116.7×90.9	11 佐々木一郎	漁村(1982) 1982 キャンバス・油彩 130.0×162.0
③ 富取風堂	霜汀 1936	絹本彩色 181.0×205.0	⑫ 篠崎輝夫	敦煌莫高窟 1996 キャンバス・油彩 91.0×91.0
4 富取風堂	雀と桃 紙本着彩	31.3×47.5	13 篠崎輝夫	西域残映 1997 キャンバス・油彩 162.1×162.1
5 富取風堂	猫とかに 絹本彩色	38.7×50.5	14 前林章司	支笏湖畔 1965頃
6 富取風堂	富士 紙本着彩	42.7×47.8	15 前林章司	キャンバス・水彩 72.8×91.0 奥入瀬 1968

### 〈洋画〉

① 浅井忠	本所風景 1878頃	紙・鉛筆 11.7×19.3	16 前林章司	キャンバス・水彩 97.0×130.0 クムジュンからのアマダラム峰 1987
② 浅井忠	朝鮮大同門図 1894	紙・鉛筆／ペン／水彩 23.7×30.7	⑭ ドービニー	キャンバス・水彩 90.9×116.7 オワーズ川のほとり 1865
3 大野隆徳	隅田川 1929	キャンバス・油彩 30.5×39.5	17 青木滋芳	キャンバス・油彩 73.7×110.5
4 大野隆徳	李朝の鉢と金魚 1934	キャンバス・油彩 36.6×44.0	2 鹿島一谷	早瀬 1971頃
5 大野隆徳	香遠亭 1934	キャンバス・油彩 48.5×59.0	3 宮之原謙	染色 44.0×51.6
6 大野隆徳	ルイ二「葡萄と子供」(模写) 1934	キャンバス・油彩 48.5×59.0	4 山室百世	布目象嵌白鷺四態図銀水注 1996頃
⑦ 小堀進	大穹 1974	紙・水彩 84.7×122.0	5 宮之原謙	彫金 15.4×14.4×11.2
⑧ 坂本繁二郎	海藻採りの海女 1912	紙・水彩／テンペラ 25.5×17.0	6 山室百世	双魚花瓶 1958
9 佐々木一郎	漁村(1964) 1964	キャンバス・油彩 162.0×130.0	7 板倉花巻	陶芸 45.0×32.0×32.0

### 〈工芸〉

1 青木滋芳	早瀬 1971頃	8 山室百世	桃花模様ランプシェード 1932
2 鹿島一谷	染色 44.0×51.6	9 板倉花巻	ガラス 15.0×33.2×33.2
3 宮之原謙	布目象嵌白鷺四態図銀水注 1996頃	10 板倉花巻	神情詩 1949
4 山室百世	彫金 15.4×14.4×11.2	11 板倉花巻	紙・墨 131.5×67.5
5 宮之原謙	双魚花瓶 1958	12 板倉花巻	
6 山室百世	陶芸 45.0×32.0×32.0	13 板倉花巻	
7 板倉花巻	桃花模様ランプシェード 1932	14 板倉花巻	
8 板倉花巻	ガラス 15.0×33.2×33.2	15 板倉花巻	
9 板倉花巻	神情詩 1949	16 板倉花巻	
10 板倉花巻	紙・墨 131.5×67.5	17 板倉花巻	

2 小 谷 碧 洞	蘭亭序 1934	② 浅 井 忠	漣家邨天長節祝宴 1894~95頃
	紙・墨 164.5×81.5		紙・水彩 18.5×32.0
3 小 谷 碧 洞	輝虎賦詩 1935	③ ジョルジュ・ビゴー	稻毛の女漁師と子ども 1892~97頃
	紙・墨 273.5×69.0		板・油彩 24.0×32.0
4 種 谷 扇 舟	龍虎 1997	④ ジョルジュ・ビゴー	稻毛の夕焼け 1892~97頃
	紙・墨 500.0×192.0		板・油彩 20.0×29.0
5 種 谷 扇 舟	靈峰 1997	⑤ ジョルジュ・ビゴー	稻毛村のわがアトリエ 1892~97頃
	紙・墨 500.0×192.0		キャンバス・油彩 42.0×54.0
⑥ 千代倉 桜 舟	いろはうたの構築 1984	⑥ ジョルジュ・ビゴー	女漁師 1892~97頃
	紙・墨／四部連 216.0×266.0		板・油彩 27.0×25.0
7 外 口 静 葉	白楽天詩「晏起」 1955~64頃	⑦ ジョルジュ・ビゴー	岸壁の二人 1892~97頃
	紙・墨 174.7×83.5		厚紙・油彩 21.0×27.0
		⑧ ジョルジュ・ビゴー	二人の漁師 1892~97頃
			板・油彩 14.0×22.0
			漁師と舟 1892~97頃
			板・油彩 27.0×39.0

◆千葉県美術品等取得基金

① 浅 井 忠	グレーの塔 1901	⑨ ジョルジュ・ビゴー
	紙・水彩 35.5×24.8	

◆収蔵資料数一覧

平成11年3月31日現在

種別	受入方法	購 入	寄 附	保 管 換	合 計
日本画		125	139	25	289
洋 画		344	402	42	788
彫 刻		82	25	11	118
工 芸		142	115	10	267
書		110	101	14	225
版 画		152	53	5	210
合 計		955	835	107	1,897
研究資料		243	1,242	53	1,538

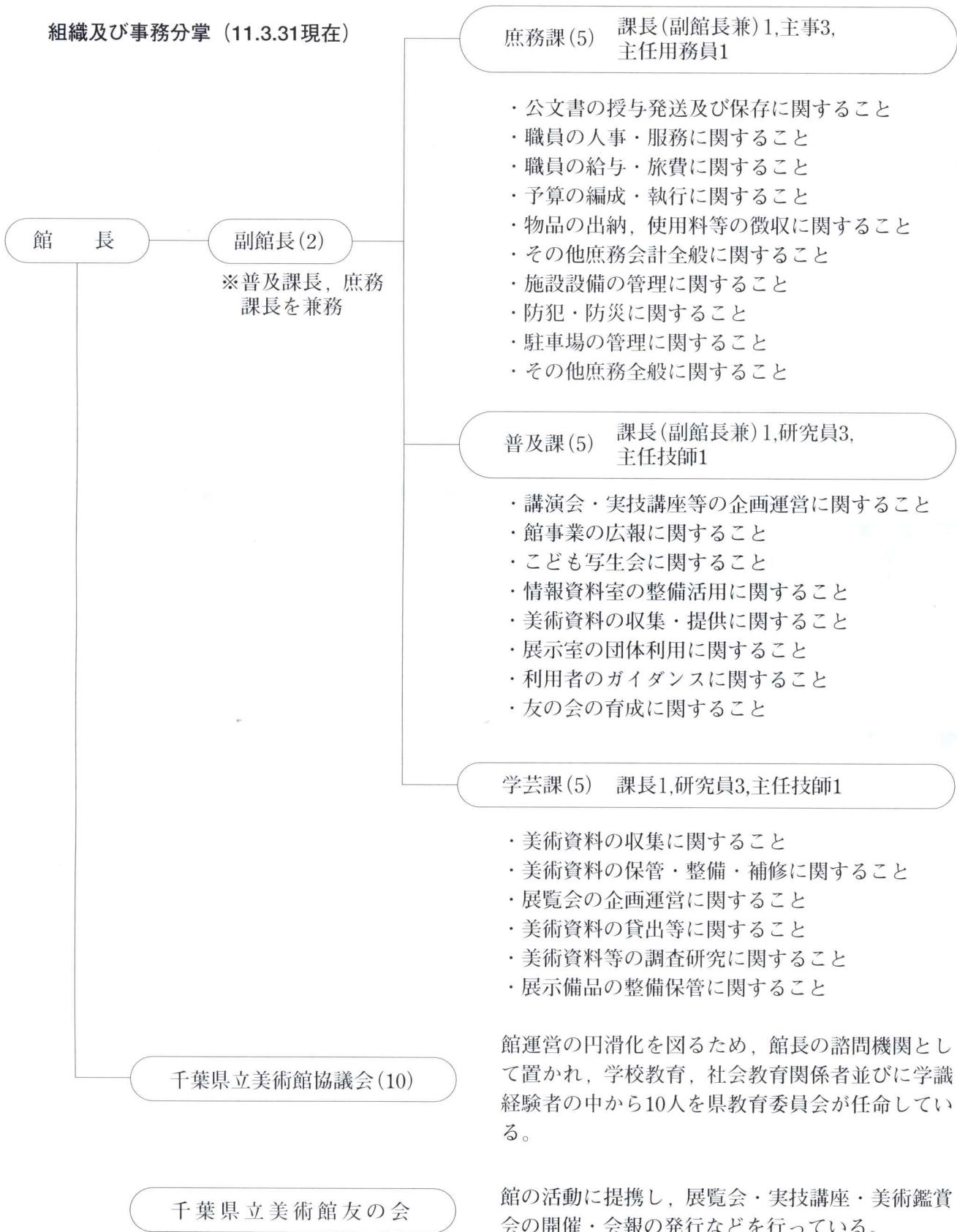
## 管 理 運 営

---

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、活動的な美の広場を目指して展示・普及活動を行っている。

協議会では、美術館の運営について諮問を行った。

## ■ 機 構



## ■ 平成10年度職員

館 長 渋 谷 哲 成  
副 館 長 兼 普 及 課 長 米 田 耕 司  
副 館 長 兼 庶 務 課 長 藤 江 光 敏

### 庶 務 課

主 事 (派) 川 内 啓 子  
主 事 (〃) 菅 生 力 生  
主 事 (〃) 藤 田 大  
主任用務員 (〃) 長 島 則 子

### 普 及 課

研 究 員 (派) 吉 見 節 子  
〃 (〃) 金 田 雅 成  
〃 (〃) 相 川 順 子  
主任技師 (〃) 中 松 れ い

### 学 芸 課

学 芸 課 長 田 坂 浩  
研 究 員 (派) 椎 名 敦 夫  
〃 (〃) 齋 藤 祐 一  
〃 (〃) 山 崎 京 子  
主任技師 (〃) 幅 大

嘱 託 大 岩 浩

## ■ 県立美術館協議会委員

石 崎 朋 夫 千葉県経営者協会専務理事  
岡 野 輝 男 日本放送協会千葉放送局長  
加 曾 利 和 夫 千葉県教育研究会造形部会長  
(10.7.1~)  
門 倉 武 夫 東京国立文化財研究所名誉研究員  
(10.7.1~)  
川 津 幸 枝 全日本書芸文化院常任理事  
久 米 公 大東文化大学文学部教授  
齋 藤 志 貴 雄 千葉県高等学校文化連盟顧問  
櫻 井 和 一 千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長  
(~10.6.30)  
新 城 瑞 璃 ネスコ株式会社相談役  
(千葉県立美術館友の会副会長)  
長 谷 川 昂 千葉県美術会前会長  
(~10.6.30)  
山 岸 正 和 千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長  
(10.7.1~)  
湯 浅 守 彦 千葉県教育研究会造形部会長  
(~10.6.30)  
渡 邊 富 雄(學) 千葉県美術会会长  
(10.7.1~)

## ■ 利用状況

### 入館者数一覧（平成10年度）

種別 月	開館 日数	個　人			團　体						人數 合計	
		一般 成人	大・ 高生	中・ 小生	一般成人		大・高生		中・小生			
					人　数	團体数	人　数	團体数	人　数	團体数		
4	26	5,896	189	510	77	2	30	1	0	0	6,702	
5	27	10,808	203	1,761	161	2	0	0	0	0	12,933	
6	25	17,177	157	3,119	227	7	0	0	134	3	20,814	
7	27	11,394	275	1,987	321	8	0	0	38	1	14,015	
8	26	10,818	582	3,683	97	2	0	0	0	0	15,180	
9	26	11,718	428	1,595	248	7	0	0	48	1	14,037	
10	22	13,248	958	826	268	6	258	2	27	1	15,585	
11	23	15,063	1,007	1,299	184	7	0	0	86	1	17,639	
12	22	16,204	303	9,523	150	4	0	0	35	1	26,215	
1	24	12,461	206	1,096	476	16	0	0	0	0	14,239	
2	24	8,890	534	2,688	26	1	0	0	231	3	12,369	
3	26	7,603	215	1,499	71	2	28	1	47	1	9,463	
計	298	141,280	5,057	29,586	2,306	64	316	4	646	12	179,191	

開館以来 総開館日数 7,125日 総入館者数 4,182,941人

### 地域別入館者数

種別 月	開館 日数	県　内		県　外		外　国	合　計
		千葉市	その他の	東京都	その他の		
4	26	3,044	2,996	211	443	8	6,702
5	27	5,721	5,922	641	649	0	12,933
6	25	10,668	9,241	478	419	8	20,814
7	27	4,534	7,401	1,001	1,049	30	14,015
8	26	6,204	7,519	365	1,072	20	15,180
9	26	4,484	7,756	913	869	15	14,037
10	22	6,576	8,011	446	544	8	15,585
11	23	6,680	10,101	341	506	11	17,639
12	22	3,905	21,631	148	519	12	26,215
1	24	5,867	7,643	388	335	6	14,239
2	24	5,503	6,221	232	411	2	12,369
3	26	3,633	5,086	225	512	7	9,463
計	298	66,819	99,528	5,389	7,328	127	179,191

## ■ 展示室利用団体

太字は県芸術フェスティバル事業

番号	展 覧 会 名	利用期間	展 示 内 容	出品点数
1	第35回全日本綜合書道大展覧会	4/7-12	書	496
2	第9回千葉県木彫会展	4/7-12	彫刻	64
3	第22回鳳聲会書作展	4/14-19	書	231
4	第68回郷陽会展	4/14-19	洋画	111
5	第12回ガラス絵クリコ会展	4/14-19	ガラス絵	52
6	第12回千葉水彩展	4/21-26	洋画	92
7	第25回千葉新協展	4/21-26	洋画	119
8	第24回歩会彫刻展	4/21-5/4	彫刻	44
9	M U S A B I 展	4/28-5/4	日本画・洋画・工芸・立体・その他	32
10	第29回表美展	4/28-5/4	表装・額装・屏風	118
11	第12回カラーダスト展	4/28-5/4	洋画	48
12	第22回墨の県展	5/6-10	水墨画・洋画	378
13	第38回千葉アマチュア美術会展	5/12-17	日本画・洋画・彫塑・版画・俳画・その他	1,554
14	第16回日中友好書道展覧会	5/19-24	書・中国画	3,970
15	第43回二科会千葉支部展	5/26-31	洋画	836
16	第24回麿展	5/26-31	日本画・洋画・工芸・写真・その他	57
17	第45回千葉県書道協会展	6/2-7	書	533
18	第23回関東全展	6/9-15	日本画・洋画・その他	162
19	第25回千虹会日本画展	6/9-21	日本画	40
20	千葉幼児美術展	6/9-15	絵画	1,900
21	第20回新槐樹社千葉県支部展	6/17-21	洋画・彫塑	40
22	第21回千葉一陽展	6/17-21	洋画	189

番号	展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
23	第26回水彩連盟千葉支部展	6/23-28	洋画	61
24	第43回千葉二紀会展	6/23-28	洋画	101
25	第13回日本画四季展	6/23-7/5	日本画	53
26	第42回千葉県小中学校書写展覧会	6/30-7/5	書	1,500
27	〈明日を拓く〉教育美術展	6/30-7/5	絵画	2,500
28	第21回精銳展	6/30-7/5	洋画	100
29	第30回千葉市水墨画同好会連合会展	7/7-20	水墨画	168
30	第18回日本春秋書院千葉書連展	7/22-26	書	142
31	第96回習美会初夏大作展	7/22-26	日本画・洋画	202
32	第27回写真千葉県展	7/28-8/9	写真	331
33	第19回龍峠書道会千葉展	7/28-8/2	書	310
34	日本水彩画会第14回千葉県支部展	7/28-8/2	洋画	66
35	第32回漱雲会全国書道展	7/28-8/2	書	557
36	第8回太平洋美術会千葉支部展	8/4-9	洋画	180
37	第12回白亜美術千葉支部展	8/4-9	洋画	45
38	第28回いてふ会彫刻展	8/11-23	彫刻	47
39	第28回新構造千葉支部展	8/18-23	洋画・彫刻・工芸・写真	142
40	第36回新世紀千葉支部展	8/25-30	洋画	73
41	’98第一美術協会千葉県支部展	8/25-30	洋画・工芸・立体	150
42	第23回葉美会展	8/25-30	日本画・洋画・写真	67
43	第15回「美しい郷土」 絵画コンクール優秀作品展	8/25-30	絵画	684
44	第38回白扇書道会展	9/1-6	書	6,056

番号	展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
45	第21回千葉等迦会千葉県支部展	9/8-13	洋画	54
46	第31回千葉県高校芸術祭「合同写真展」	9/8-13	写真	415
47	ダネラ展	9/8-13	工芸	30
48	千葉中美展	9/15-20	日本画・洋画	76
49	第30回記念千葉現展	9/15-20	洋画・工芸・写真・デザイン	139
50	第21回千葉県写真展	9/15-27	写真	150
51	第45回千葉県勤労者美術展	9/22-27	洋画・写真・書	315
52	第48回デザインフェスタCHIBA	9/22-27	デザイン	119
53	第30回ファンシー洋画展	9/29-10/4	洋画	82
54	第25回文化書道千葉県連合会公募展	9/29-10/4	書	183
55	第18回二科会写真部千葉支部展	9/29-10/4	写真	62
56	第9回千葉県教育芸術祭	10/6-11	洋画・工芸・書・写真・日本画・その他	846
57	日本書道学会千葉県連合会第14回書道展	10/6-11	書	129
58	第50回千葉県美術展覧会（県展）	10/17-11/15	日本画・洋画・彫刻・工芸・書	2,902
59	千葉県高校芸術祭 「美術工芸書道作品展」	11/18-29	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・デザイン	3,478
60	第43回こども県展	12/1-13	絵画	9,050
61	第16回明るい社会づくり ポスターコンクール展覧会	12/15-20	絵画	1,040
62	千葉県立幕張総合高校書道部校外展	12/15-20	書	124
63	富士百景写真展	1/5-10	写真	101
64	第34回登龍社書初展	1/5-10	書	346
65	第16回千葉県医師会美術展	1/19-24	日本画・洋画・写真・工芸・書・デザイン	104
66	第32回千葉県老人クラブ会員作品展	1/19-24	日本画・洋画・写真・工芸・書・その他	359

番号	展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
67	群鷗書人展	1/26-31	書	44
68	第14回書星選抜展	1/26-31	書	284
69	第24回子ども造形展	2/2-7	洋画・彫刻・工芸・書・デザイン・その他	1,500
70	第51回千葉県小中高校書き初め展覧会	2/2-7	書	801
71	第26回千葉書壇秀抜展・新進展	2/9-14	書	416
72	千葉大学教育学部美術科岡工科卒業制作展	2/16-21	洋画・彫刻・デザイン・工芸	54
73	千葉大学教育学部第33回学生書道展	2/16-21	書	416
74	千葉県建設業協会文化作品展	2/16-21	日本画・洋画・彫刻・工芸・写真・書	149
75	第28回千葉県大学美術連盟展	2/23-28	日本画・洋画・デザイン・立体・その他	64
76	第24回千葉県民写真展	2/23-3/7	写真	485
77	第4回翔洋展	3/9-14	洋画	51
78	第10回日本童謡の書展	3/9-14	書	2,374
79	和洋女子大学卒業展	3/9-14	書	28
80	第22回唱和会書展	3/16-22	書	126
81	第46回書星教育部展	3/24-28	書	557

# 施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下煤塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

## 外壁の打込みタイルー先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、炻器質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通り、2,400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通り、横方向に単管を480ピッチに通り固定したが、施行時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防げ満足する状態に仕上がった。

## 屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

## 空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルターの3種類の空気清浄フィルターを組んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はC A V（定風量型）+V A V（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。V A V方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つV A V方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の

異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

## 照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源により全体計画されている。

自然光源は展示棟の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx（平均）以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値があり、また水平面照度にしても50,000lx（薄暗）から5,000lx（曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン（これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なる透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による通過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル（通過率53.6%）と黒地のジョーゼット（通過率35%）の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

## 〈設計及び工事監理者〉

大高建築設計事務所

## 〈施工者〉

建築：（株）竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業（株）

衛生＝第一管工事（株）

電気＝関東電気工事（株）

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

## 〈都市計画地域指定〉

用途地域：準工業地域

## 〈規模・面積〉

敷地面積	33,057.87m <sup>2</sup>
建築面積	8,777.94m <sup>2</sup>
延床面積	10,663.57m <sup>2</sup>
展示棟	6,343.02m <sup>2</sup>
管理棟	2,818.89m <sup>2</sup>
県民アトリエ棟	1,501.66m <sup>2</sup>
駐車台数	97台

## 〈工期及び建設経費〉

(1) 第1期工事 (展示棟) 5,194.59m<sup>2</sup>

(建築面積5,102.35m<sup>2</sup>)

○工 期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円

本体工事 425,230千円

電気設備工事 79,663千円

空調設備工事 166,493千円

給排水衛生設備工事 28,995千円

外構工事 67,705千円

ガス工事 7,881千円

(2) 第2期工事 (管理棟) 2,274.60m<sup>2</sup>

(建築面積1,089.50m<sup>2</sup>)

○工 期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円

本体工事 307,500千円

電気設備工事 30,000千円

空調設備工事 79,000千円

給排水衛生設備工事 19,514千円

外構工事 17,786千円

(3) 第3期工事 (県民アトリエ) 1,501.66m<sup>2</sup>

(建築面積1,449.34m<sup>2</sup>)

○工 期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370,000千円

本体工事 265,300千円

電気設備工事 35,000千円

空調設備工事 56,200千円

給排水衛生設備工事 13,500千円

○工 期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円

外構工事 8,000千円

(4) 第4期工事 (第8展示室) 1,148.43m<sup>2</sup>

収蔵庫544.29m<sup>2</sup> 1,692.72m<sup>2</sup>

(建築面積1,136.75m<sup>2</sup>)

○工 期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747,500千円

本体工事 476,000千円

電気設備工事 81,000千円

空調設備工事 171,000千円

給排水衛生設備工事 19,500千円

総工事費 2,355.267千円

## 工期別面積一覧

区分	地階	1階	2階	塔屋	合計
第1期	325.04	4,750.79	61.00	57.76	5,194.59
第2期	—	1,185.10	1,089.50	—	2,274.60
第3期	—	1,403.15	98.51	—	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	—	1,692.72
合計	340.50	8,472.01	1,793.30	57.76	10,663.57

## 〈概要〉

建物

### 【階数】

地下1階、地上2階、塔屋1階建

### 【高さ】

基礎底：G L -5.00m

高さ：G L +15.20m

### 【構造】

主体構造：鉄筋コンクリート造

屋根：鉄骨造

主鋼材：S S 4 1 及び高張力鋼

コンクリートの種類

A種・普通コンクリート(基礎・地中梁・1階スラブ)

$F_c = 210 \text{ kg/cm}^2$

B種・軽量コンクリート(梁・スラブ用・地上部)

$F_c = 300 \text{ kg/cm}^2$

C種・軽量コンクリート(地上部躯体でA B以外の  
梁・壁など)  $F_c = 240 \text{ kg/cm}^2$

## 〈設備〉

### 【電気設備】

受電方式：交流3相3線式6,000V 50Hz

電話交換方式：64回線デジタル交換機方式

### 【空調設備】

展示棟=C A V (定風量型) + V A V (可変風量型) 方式

管理棟=V A V 方式

保管庫=露点再熱制御方式

県民アトリエ棟=各室ハンドリング方式

熱源：空気熱源スクリュー熱回収ヒートポンプ方式

### 【衛生設備】

給水：ポンプ圧送方式、引込み管径75mm

排水：汚水・雑排水合流方式系統(管径300)、雨水系統(管径300)別、公設本管へ放流

### 【防災設備】

排煙方式：自然排煙、機械排煙(第1, 2, 7展示室)

消化方式：屋外・屋内消化栓、不燃性ガス消化設備(ハロゲン1301)

自家発電：ディーゼル機関直結交流発電機、定格出力100kVA

火災報知設備：P型1級自動火災報知設備

### 【その他の設備】

防犯設備：I T V カメラ設備、防犯警報装置

昇降機設備：荷物用エレベーター

規模：容量3,000kg,

カゴ内法=3,000mm×3,000mm×3,000mm,

速度30m/min

## 展示棟

玄関ホール	102.40m <sup>2</sup>
クローケーク	91.80m <sup>2</sup>
倉庫A	2.70m <sup>2</sup>
〃B	〃
第1展示室	437.76m <sup>2</sup>
〃2	400.32m <sup>2</sup>
〃3	469.08m <sup>2</sup>
〃4	403.20m <sup>2</sup>
〃5	824.19m <sup>2</sup>
〃6	330.58m <sup>2</sup>
〃7	566.56m <sup>2</sup>
〃8	864.61m <sup>2</sup>
食堂	119.52m <sup>2</sup>
厨房	36.00m <sup>2</sup>
従業員控室	17.28m <sup>2</sup>
食堂ホール	49.20m <sup>2</sup>
ミュージアムショップ	12.00m <sup>2</sup>
ロビーピー	335.52m <sup>2</sup>
第1休憩室	23.04m <sup>2</sup>
〃2	〃
〃3	〃
便所A	30.24m <sup>2</sup>
〃B	23.76m <sup>2</sup>
身障者用便所	7.92m <sup>2</sup>
コントロール室	20.16m <sup>2</sup>
フィルタ室	28.92m <sup>2</sup>
工作室	31.00m <sup>2</sup>
発電気室	25.00m <sup>2</sup>
電気室	123.20m <sup>2</sup>
ポンプ室	76.80m <sup>2</sup>
機械室	305.20m <sup>2</sup>
機械室(新)	283.82m <sup>2</sup>
高架水槽室	11.46m <sup>2</sup>
E.V機械室	27.28m <sup>2</sup>
E.V廻り	54.56m <sup>2</sup>
ダクトスペース	35.68m <sup>2</sup>
廊下等	123.48m <sup>2</sup>

計 ① 6,343.02m<sup>2</sup>

## 管理棟

(1階)	
第2会議室	22.62m <sup>2</sup>
更衣室	14.38m <sup>2</sup>
医務室	21.18m <sup>2</sup>
書庫	22.02m <sup>2</sup>
警備員室	43.59m <sup>2</sup>
第1会議室	20.15m <sup>2</sup>
倉庫	7.19m <sup>2</sup>
湯沸室	5.19m <sup>2</sup>
便所	24.54m <sup>2</sup>
宿直室	34.20m <sup>2</sup>
物置	9.92m <sup>2</sup>
用務員室	31.83m <sup>2</sup>
審査室・資料室	520.68m <sup>2</sup>
準備室・荷解室	
消毒室	31.79m <sup>2</sup>
資料室	124.25m <sup>2</sup>
倉庫	52.67m <sup>2</sup>
荷解梱包室	
荷扱人	21.94m <sup>2</sup>
機械室	51.74m <sup>2</sup>
廊下	123.97m <sup>2</sup>
小計	1,183.85m <sup>2</sup>

## (2階)

館長室	33.27m <sup>2</sup>
副館長室	23.42m <sup>2</sup>
第1応接室	14.67m <sup>2</sup>
第2応接室	14.55m <sup>2</sup>
庶務課	112.34m <sup>2</sup>
会議室	43.84m <sup>2</sup>
学芸課・普及課室	195.32m <sup>2</sup>
学芸相談室	23.91m <sup>2</sup>
研究工作室	216.49m <sup>2</sup>
写真スタジオ	54.30m <sup>2</sup>
器材室	6.74m <sup>2</sup>
暗室	12.19m <sup>2</sup>
第1収蔵室	184.40m <sup>2</sup>
〃2	42.81m <sup>2</sup>
〃3	544.29m <sup>2</sup>
E.V前室	16.39m <sup>2</sup>
便湯	21.50m <sup>2</sup>
沸室A	3.24m <sup>2</sup>
〃B	6.87m <sup>2</sup>
廊下等	60.94m <sup>2</sup>
ダクトスペースその他	3.56m <sup>2</sup>
小計	1,635.04m <sup>2</sup>
計 ②	2,818.89m <sup>2</sup>

## 県民アトリエ棟

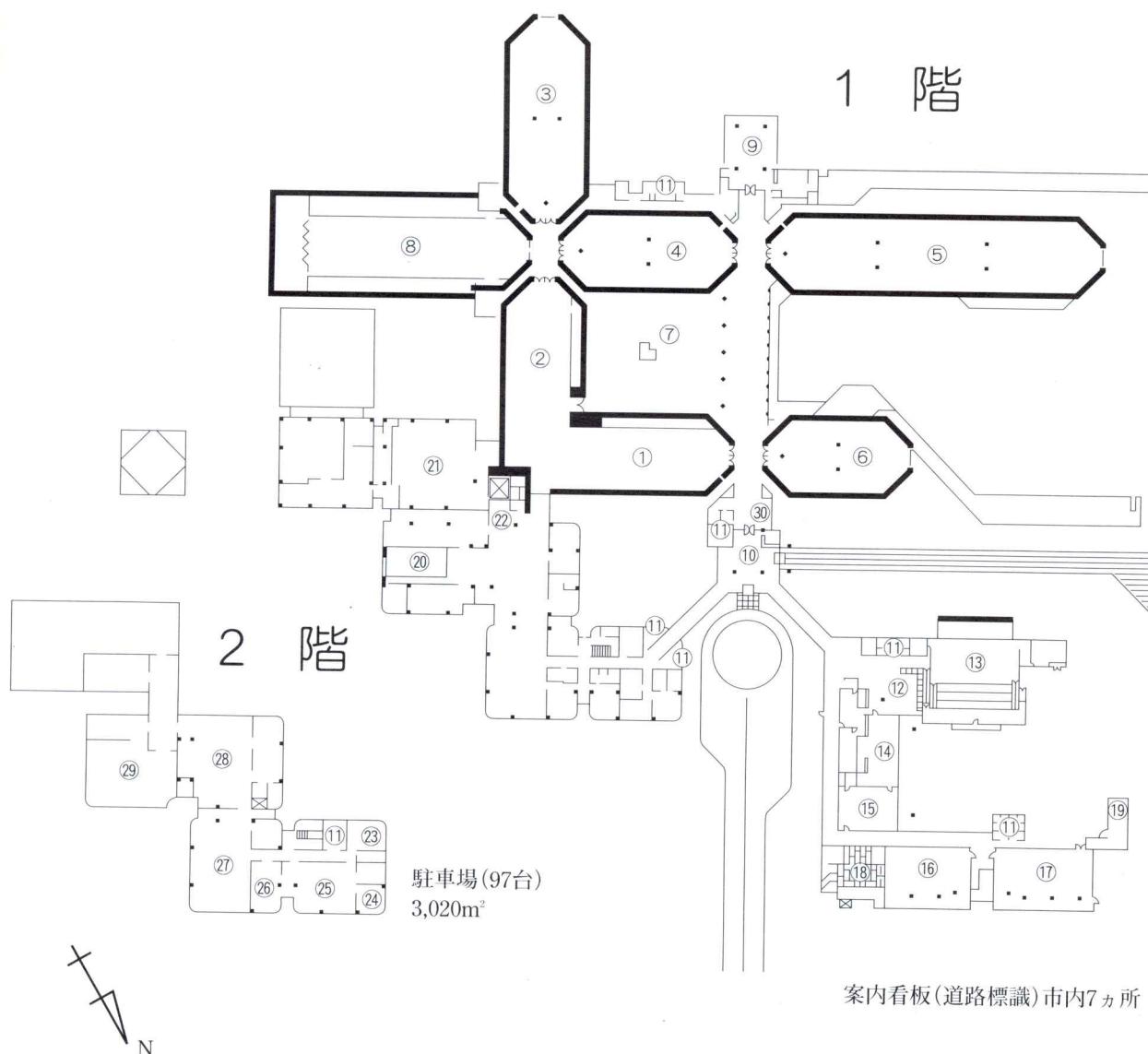
1F機械室	25.92m <sup>2</sup>
講堂倉庫	8.64m <sup>2</sup>
講堂	259.24m <sup>2</sup>
コントロール室	30.33m <sup>2</sup>
ホール側便所	29.97m <sup>2</sup>
情報資料室	172.77m <sup>2</sup>
情報資料室倉庫	4.70m <sup>2</sup>
事務室	22.76m <sup>2</sup>
研修室	74.70m <sup>2</sup>
研修室倉庫	4.23m <sup>2</sup>
第1アトリエ	155.70m <sup>2</sup>
〃2	184.31m <sup>2</sup>
〃3	95.47m <sup>2</sup>
アトリエ側便所	20.77m <sup>2</sup>
荷解室	25.65m <sup>2</sup>
窯場	27.17m <sup>2</sup>
窯場倉庫	6.66m <sup>2</sup>
ホールその他	352.67m <sup>2</sup>
計 ③	1,501.66m <sup>2</sup>
合計	10,663.57m <sup>2</sup>
(①+②+③)	

## 参考

*展示室総面積	4,296.30m <sup>2</sup>
*収蔵庫総面積	771.50m <sup>2</sup>

## 内容

- |             |                 |
|-------------|-----------------|
| ①～⑧展示室      | ⑯～⑰実技室          |
| ⑨食堂 (44席)   | ⑯窓場             |
| ⑩玄関ホール      | ⑰搬出入口           |
| ⑪トイレ        | ⑱機械室            |
| 男子用 6ヶ所     | ⑲エレベーター         |
| 女子用 6ヶ所     | ⑳館長室            |
| 身体障害者用 2ヶ所  | ㉑副館長室           |
| ⑫ホール        | ㉒庶務課            |
| ⑬講堂 (200人)  | ㉓会議室            |
| ⑭情報資料室      | ㉔学芸課・普及課        |
| 火～金         | ㉕研究工作室          |
| 12:30～16:30 | ㉖収蔵庫            |
| ⑮研修室 (40人)  | ㉗ミュージアム<br>ショップ |



# 関 係 法 令 等

## 1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

### (目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

### (開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

### (休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

一 定期休館日月曜日（その日が国民の祝日にに関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）

二 国民の祝日にに関する法律に規定する休日

三 年始休館日 1月1日から1月4日まで

四 年末休館日 12月26日から12月31日まで

五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することがある。

### (入館の制限)

第4条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 特別展覧会又は現代産業科学館の映像ホールを観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しない者

二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者

三 泥酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

### (観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 現代産業科学館の映像ホール観覧券は、別記第2号様式とする。

3. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第3号様式）により、館長に申し込まなければならない。

### (禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。

二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。

三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。

四 その他、他の入館者の妨げになるような行為をすること。

### (損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償せざることがある。

### (委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

### 附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

### 別記様式（省略）

## 2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

### (趣旨)

第1条 県が徴収する使用料および手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

### (使用料の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

### (種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

### (中略)

### (徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

### 別表第一（抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区分	単位	額
博物館	入館料	特別展覧会	1人1回につき	1,000円以内

### （以下省略）

## 3. 使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

### （徴収の特例）

第7条の2 条例第8条の2の規程による規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

### 別表第六（抜粋）

行 事 等	施 設
県民の日(6月15日) 65歳以上の者、身体障害者 (介護者を含む。) 又は精神薄弱者が使用する場合。	博 物 館

# 利 用 案 内

## ■ 開館時間

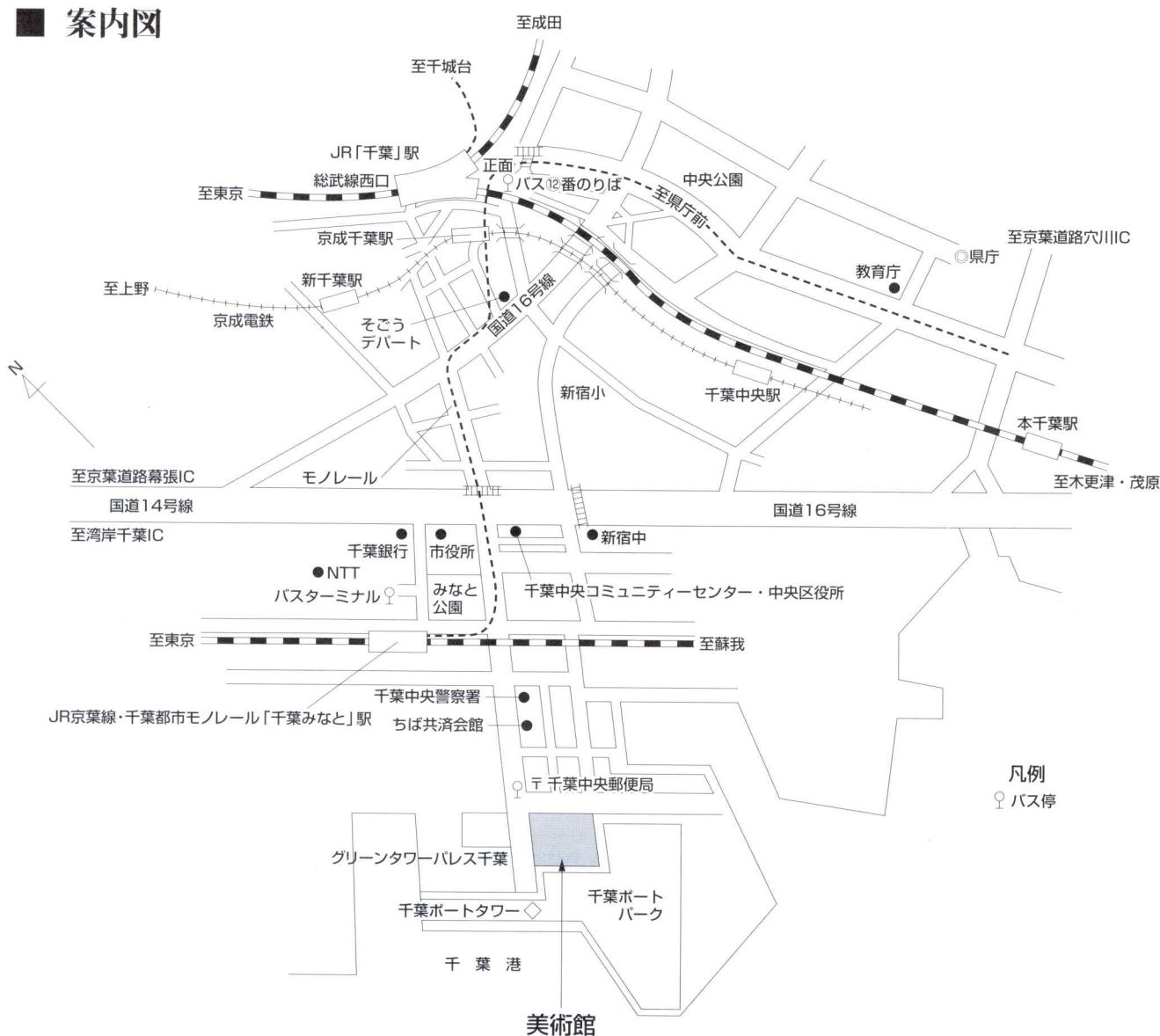
開館時間	午前9時から午後4時30分まで
休館日	・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
	・年末年始（12月26日～1月4日）
	・展示替え等のため、必要があるとき。

観覧料・ 無料（ただし、特別展は有料）

## ■ 交 通

- ★JR(京葉線)・千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車、徒歩8分。
- ★JR「千葉」駅・京成線「京成千葉」駅下車  
●徒歩23分。
- バス⑫番のりばから「千葉ポートタワー」行にて15分。「美術館・中央郵便局前」下車、徒歩1分。

## ■ 案内図



---

平成10年度千葉県立美術館年報 (No.25)

平成11年6月10日発行

発行者 千葉県立美術館

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

T E L 043 (242) 8311

---





